

教会へのあかし

第七卷・第四部
出版事業の部

「もろもろの民の上に旗を上げよ。……」

シオンの娘に言え、

『見よ、あなたの救は来る。』」

(イザヤ書六二ノ一〇、一一)

序

神の言が預言者と御子イエス・キリストにおいて、人の言に受肉したときから、福音文書の出版は神の教会の重要な任務の一つであった。終末の時代になって、この任務はその重要性をいちじるしく増している。この時代に、幾千幾万の人々は、福音文書によって呼び出され、主の来臨を迎える備えの働きに加わっているのである。

わが教団の働きにおける出版事業の重要性については、早くから主の預言者、ホワイト夫人によって指摘されてきた。『教会への証』第四巻、第七巻、第九巻およびその他の多くの箇所において、ホワイト夫人は出版事業の意義とあり方について、明確な勧告を与えている。その中でも『教会への証』第七巻、第四部「出版事業の部」はとくに出版事業全般にわたる証がまとめられている。この小著はその全訳である。

この勧告を読むことによって、出版と文書伝道事業に従事している者をはじめとして、すべての教会員が出版事業の意義とあり方について知り、確信をもって伝道に従事されることを願うものである。

目 次

われわれの出版所における神の目的	1
われわれの教派の印刷物	18
商売上の業務	35
伝道地における出版所	47
出版所の相互関係	50
文書伝道者	56
著 者	58
教会と出版所	67
神の器の神聖さ	80
神への信頼	85
協 力	90
自制と忠誠	94
不適當な読書から受ける危険	101
負債を避けなさい	105
信仰と勇氣	112
自己犠牲	120

われわれの出版所における神の目的

真理のための証言

「捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、主の恵みの年と、われわれの神の報復の日とを告げさせ」るために『あなたがたはわが証人である』と主は言われる。」

われわれの出版事業は、神の指示と彼の特別な監督のもとに設立され、特種な目的を果たすために計画されたのである。セブンスデー・アドベンチストは、社会から離れて神に属する特別な民として、神によって選ばれた。この世の石切場から、真理の大きな石切道具で、彼らを切り出して、彼御自身に結びつけられたのである。彼は、彼らを御自身の代表者とし、救いの最後の働きにおいて彼の大使とするために、彼らを召集された。人間に委託された最大の真理の富、神が人に送った中で最も厳粛で恐るべき警告を世界に与えるように彼らにゆだねられて

いるのであって、この働きを成就するために、われわれの出版所は最も効果的な機関の一つなのである。

これらの機関は、神の証人として、また、人々を教える義の教師として立たなければならぬ。彼らから真理が、輝く燈火として出て行かなければならない。危険な沿岸の燈台にともされる大きな光のように、彼らは、破滅の恐れがある危険を人々に警告するため、世の暗黒の中に、輝く光を絶えず放たなければならないのである。

われわれの印刷所から送り出される出版物は、神に会う民を準備するためのものであって、それは、ユダヤ国民のためにバプテスマのヨハネがした働きと同様な働きを、世界中でしなければならぬのである。神の預言者は、驚くような警告のメッセージによって、人々を世俗的な夢想から覚醒した。神は、彼によって、背信しているイスラエル人に悔い改めるよう、呼びかけられた。真理を示す事によって、彼は、一般社会の欺瞞を暴露した。彼の教えた真理は、その時代の偽りの理論とは対照的に、永遠に確実性のあるものとして目立ったものであった。「悔い改めよ、天国は近づいた」というのがヨハネのメッセージであった。この同じメッセージが、われわれの印刷所から出る出版物を通して、今日の世界に与えられなければならないのである。ヨハネの伝道によって成就した預言「主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ」

（マタイ三ノ二、三）が、われわれの働きの輪郭を描いている。ヨハネが、救い主の初臨のために道を備えたように、われわれは、御再臨のために道を備えなければならない。われわれの出版所は、踏みにじられた神の律法の要求を高くかかげなければならない。改革者として社会の前に立ち、神の律法が恒久的な、すべての改革の基礎である事を示さなければならない。彼のすべての律法に服従する事の必要性を、明確な言葉で示さなければならない。キリストの愛に強く迫られて、久しく荒れすたれたる所を興し、代々やぶれた基を立てるために彼と協力しなければならないのである。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者として立たなければならない。彼らの証言によつて、第四条の戒めの安息日が、人々の注意を引いて研究心を起こさせ、それによつて人々の心を彼らの創造主に向ける証拠となり、絶えず神を思い起こさせるものとならなければならない。

これらの機関は、天の代表者たちの奉仕に協力しなければならないという事を決して忘れないようにしなさい。彼らは、「地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣傳伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、……『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。』」と「大声で言つて」「中空を」飛んでいる御使が代表する機関の一つなのである。

彼らから「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」（黙示録一四ノ八）という恐るべき告発の宣言が出されなければならぬ。

彼らは「続いてきて、大声で：『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、……神の激しい怒りのぶどう酒を飲み』（黙示録一四ノ九、一〇）と言った第三の御使によって代表されている。

そして、大いなる権威を持って、天から降りて来て、地が彼の栄光によって明るくされた、もうひとりの御使の働きが、われわれの出版所を通して、大いに果たされなければならない。

われわれの出版所に負わされている責任は厳粛である。これらの機関を経営する人々、定期刊行物を編集したり、書籍を準備したりする人々は、神の目的を知り、世界に警告を与えるために召された者として、神によって彼らの同志である人々の魂に対する責任が負わされているのである。彼らには、み言葉をもって仕える牧師と同様に、昔、神がその預言者に与えられたメッセージが当てはまる。「人の子よ、わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする。あなたはわたしの口から言葉を聞き、わたしに代って彼らを戒めよ。わたしが悪人に向かつて、悪人よ、あなたは必ず死ぬと言う時、あなたが悪人を戒めて、その道から離れさせ

るように語らなかつたら、悪人は自分の罪によって死ぬ。しかしわたしはその血を、あなたの手を求める」(エゼキエル書三三ノ七、八)。

このメッセージは、今日以上に強い力をもって当てはまった事はなかった。ますます社会は、神の御要求を無視して行き、人々は罪を犯すのに大胆になった。世界の住民の不義は、彼らの罪悪の限度を、ほとんど満たした。この世界は、神が、滅ぼす者に彼の意志を果たす事を、おゆるしになる所にまで、ほとんど達した。神の戒めを人間の法律と置き換え、聖書の安息日の代わりに、日曜日を、単なる人間の権威によって、高める事が、ドラマの中の最後の行動である。この置き換えが世界的になった時、神は御自身を表わされる。彼は威光をもって立ち上がり、地を脅かされるのである。彼は、そのおられる所を出て、地に住む者の不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやあうことがない。

天国でサタンが引き起こした大争闘は近いうちに、本当に近いうちに、永久的な決定がなされる。間もなく地に住む者はすべて、天の政府の味方になるか、敵対するか、いずれかの側についてしまうのである。現在は、今までに無い程、サタンが、油断をしているすべての魂を迷わして滅ぼすために彼の惑わす力を働かせている。われわれは、人々を、彼らの前にある大きな戦闘に対して準備するために覚醒するように求められているのである。われわれは、滅びのせ

とぎわに立っている人々に警告を与えなければならない。神の民は、サタンの偽りと戦い、彼の要塞を破壊するために全力をあげなければならない。この広い世界で、耳を傾けるすべての人に、大争闘の中で危険に陥っている主義原則―魂の永遠の運命がかかっている主義原則を明らかに示さなければならない。われわれは、あらゆる地に住む人々に「あなたは背教者に従って神の戒めに、そむいているか、あるいは、『わたしはわたしの父の戒めを守った』と宣言された神のみ子に従っているか」という質問を、胸にこたえるように与えなければならない。これが、われらの前にある仕事である。このためにわれわれの出版社は設立されたのである。神が、彼らの手から期待されるのは、この働きである。

キリスト教の原則の実演

われわれは、単に真理の理論を公表するだけでなく、品性と生活によって、その実例を示さなければならない。われわれの出版社は、社会の人々の前に、キリスト教の主義原則の具体化したものとして立っていないなければならない。これらの機関において、彼らに対する神の御目的が果たされるならば、キリスト御自身が、働く人々の上に立たれるのである。聖天使たちが各部門の働きを監督される。であるから、各方面の働きが、すべて天の印象を与え、神の御品性

のすばらしさを表わさなければならぬのである。

神は、彼のみ業が、社会に、はっきりとした清い輪郭で示されるように命じておられる。彼は、キリスト教が、世俗的な生きかたにまさる事を、彼の民が、その生活によって示すように望んでおられる。われわれの携わる仕事の取り引きのすべてにおいて、天の主義原則が、この世の主義原則にまさる事を表わすよう、彼の恵みによって、あらゆる備えが、われわれのためになされている。われわれは、この世の人々よりも高い水準で働いている事を示さなければならぬ。すべての事において、品性の純潔さを表わし、真理は受け入れて服従するならば、それを受け入れる者を神のむすこ、むすめとし、天の王子たちとする事を示さなければならない。そしてそういう者として取り引きにおいて正直であり、忠実で真実であり、人生の大事におけると同じように小事においても忠実な事を示さなければならないのである。

われわれのすべての働き、機械的な方面の働きにおいてさえも、神の完全な御品性が現われる事を神は望んでおられる。地上の幕屋の建設で彼が要求された正確さ、技術の良さ、気転、知恵、また完全さが、彼の働きの中でなされるすべての事に、取り入れられるように願っておられる。彼のしもべたちが携わるすべての取り引きが、真実で、清純な信仰をもってなされ、東方の博士たちが、みどり子、救い主に持って来た黄金、乳香、没薬のように、彼の御目に純

粹で尊くなければならない。

このように、キリスト信者は、彼らの実業の生活において、この世に光を運ぶ者でなければならない。神は、彼らが、光を照らす努力をするように求めてはあられない。自己満足の精神で、すぐれた善良さを見せびらかそうとする事は、お喜びにならない。彼らの心が、天の主義原則で浸透し、そうして後に、社会の人々と接触して彼らの中にある光を現わすように彼は望まれる。彼らの正直さ、高潔さ、そして人生のすべての行動において不動の誠実さが、光を照らす手段となるのである。

神の国は、外見的に目立つ姿では来ない。それは、彼のみ言葉の静かな感動を通し、彼のみ霊の内的な働きにより、魂がその生命である彼と交わる事によって来るのである。その力の最大の表示は、完全なキリストの品性に達した人間の性格の中に見られる。

富裕な外観や地位、高価な建築物や家具は、神のみ働きの進展のために必須ではない。また、人間から称賛を得、虚栄心を助長する業績も同様である。どれ程威厳があっても、世的な外面の飾りは神にとって無価値なのである。

外見的な事で完全さを求める事は、われわれの本分ではあるが、この目的を最高の事にしないように常におぼえていなければならない。それは、より重要な事柄に従属させねばならない。

目に見える、一時的なものよりも、神は目に見えない、永遠のものを尊ばれる。前者は、後者を表現する時にだけ価値があるのである。最もすぐれた芸術作品も、聖霊が心に働く結果として生じる品性の美に匹敵する美しさは持っていない。

神が、そのみ子を世にお与えになった時、彼は人間に不滅の富、すなわち、世の初めから、人間が大切にしている宝も、これと比較すると価値が全く無くなるような富を授けられたのである。キリストは、この世に來られて、積もり積もった永遠の愛をもって、人の前に立たれたが、これこそ、われわれが彼と連なる事により受けて、示し、また与えなければならぬ宝なのである。

われわれの機関は、まさしく従業員の献身的な信仰によって神のみ働きに特徴を与えるが、それは人生を変化させるキリストの恵みの力を現わす事によってなされるのである。われわれは、神が彼の印を、われわれの上に押し、彼御自身の愛の品性を、われわれの中に表わされる事によって、社会の人々から目立っていなければならない。われわれのあがない主は、彼の義をもって、われわれを覆ってくださるのである。

神は、彼のみ働きのために男女を選ばれる時、彼らに学識や雄弁さや、世的な財産があるかどうかを、問われない。「彼らは、わたしの方法を、わたしが教える事ができる程、謙虚に歩

むだろうか。彼らのくちびるに、わたしの言葉を入れる事ができるだろうか。彼らは、わたしを代表するだろうか」と彼は問われる。

神は、彼のみ霊を心の宮に入れる事ができる程度に、完全に正比例して、だれでもお用いになる事ができるのである。彼が受け入れられる働きは、彼のみ姿を反映する働きである。彼の信者は、社会に対する彼の信任状として、消す事のできない彼の不滅の原則の特色を身につけていなければならない。

伝道機関

われわれの出版所は、神の指定されたセンターであって、その重要さがまだ認識されていない事業が、彼らを通して遂行されなければならないのである。彼らがまだ、ほとんど手をつけていない方面の働きや社会への影響があつて、神は彼らの協力を求めておられる。

真理のメッセージが、新しい伝道地に進出して行く時、新しいセンターを設立する働きを絶えず前進させる事が神の御目的である。神の民は、世界中に神の安息日の記念碑、すなわち、彼が彼らを聖別する神である事を示す神と彼らの間のしるしを立てなければならない。伝道地の各所に出版所が建設されなければならないのである。事業に特色を与え、働きや感化を及ぼ

すセンターとし、人々の注意を引き、信者の才能や能力を育て、新しい教会を統一し、教役者たちの働きを支持して、彼らに、教会とのよりよい連絡と使命のより急速な宣伝のための便宜を与える等、これらすべてと、その他多くの考慮すべき問題が、伝道地に出版部のセンターを設立する必要性を訴えている。

既に設置されているわれわれの機関が、この事業に参加する事は特権であるだけでなく義務である。これらの機関は自己犠牲によって創設されたものであり、神の民の克己的なささげ物と、神のしもべたちの無私の働きによって築き上げられて来たのである。神は、彼らが同様な自己犠牲の精神を表わし、他の伝道地に新しいセンターを設立することを助け、同じ事をするように計画しておられる。

個人に対するのと同様に、機関に対しても、同じ法則が当てはまる。彼らは自己中心になつてはならないのである。一つの機関が確立して、力と勢いを得る時、自分のために、より大きな設備を設けようとして絶えず手を伸ばしてはならない。すべての個人の場合と同様に、どの機関の場合も、与えるために受けるという事は真理である。神は、われわれが与えるために与えてくださるのである。一機関が自分で運営できるようになり次第、他のもっと困っている神の機関を助けるために手を差しのべるべきである。

これは、律法と福音両者の原則―キリストの生涯に例証された原則に一致している。われわれが公言する、神の律法に対する忠実さと、あがない主への忠誠を表わす告白が真実であるという最大の証拠は、われわれ人間同士に対する無我で自己犠牲的な愛である。

絶えず恩恵を示す事によって、神のみ姿を墮落した人類の中に回復するという主義原則の上に、福音が立脚している事が、福音の光栄なのである。神は、その原則が表わされる場所がどこであっても、これを尊重される。

キリストの模範にならって、真理のために自己を捨てる者は、世の人々に大きな印象を与える。彼らの模範は人を信服させ、また伝わって行く。人々は、神の民と公言する人たちの間に、愛によって働き魂を利己主義から清める信仰のある事を認める。神の戒めに従う人々の生活の中に、世間の人たちは、神の律法が確かに神と人に対する愛の律法であると、納得するような証拠を見るのである。

神のみ事業は、常に、彼の恩恵の象徴でなければならないのであって、その象徴が、われわれの機関の働きで明示される時、人々の信頼を勝ち得て、み国の進展のために資源をもたらす。み働きのどの面においても、利己的な関心をほしいままにするとところから主は彼の祝福を取り除かれるが、人類向上のために用いるならば、彼は、全世界を通して彼の民が、良いものを所

有するようにされるのである。われわれが、神の恩恵の原則を心から受け入れる時に、使徒時代の経験が、われわれにも訪れる。すなわち、すべての事で一致して聖霊の導きに従うようになるのである。

働き人たちのための訓練所

われわれの機関は、最高の意味の伝道機関であるべきであり、また、真の伝道の働きは常に、最も身近な人々から始まるのである。どの機関においても、なされなければならない伝道の働きがある。マネージャーから末端の働き人に至るまで全員が、自分たちの中でまだ信仰を持っていない人々に対する責任を感じべきであって、彼らをキリストに導くために熱心な努力をしなければならぬ。そのような努力の結果、多くの人々が得られ、神に仕える忠実で、真実な信者となるのである。

われわれの出版所が、伝道地のための責任を負う時、働き人たちに、より広い、より完全な教育を与える必要のある事を悟る。彼らは、この働きのために彼らの施設の持つ価値を認識し、単に自分の領域内の働きを築いて行くためでなく、新しい伝道地の機関に有効な助けを与えるため、働き人たちに能力をつける必要を悟るのである。

神は、われわれの出版所が、実業的にも、また霊的な面においても効果的な教育をする学校であるように計画しておられる。マネージャーも従業員たちも、神は、彼の働きに属するすべての事柄に完全さを要求される事を常に覚えていなければならない。指導を受けるために、われわれの機関にはいる者すべてに、これを理解させ、できる限り最大の實力を身につける機会を、皆に与えなさい。他の伝道地に召された場合、全般的な訓練ができているために、各種の責任を負う力があるよう、各方面の仕事に通じさせなさい。

見習い生は、出版所で必要な期間を費やした後は、印刷の各種の仕事をよく理解して始める事ができ、彼らのエネルギーを最高に用いて神のみ働きに勢いを添え、受けた知識を他に与えられるようになって、出て行く事ができるよう、訓練されなければならないのである。

従業員は皆、仕事の面で教育されるだけでなく、霊的な責任を負えるようにならなければならないという事を強く感じさせられるべきである。キリストと個人的に連なり、彼の救済力を個人的に体験する事の重要性を、すべての従業員に印象づけなさい。従業員は、預言者の学校の青年たちのように教育を受けさせ、彼らの精神が、神の指定された機関を通して、神によって形成されるようにさせなさい。全員が聖書に基づいた教育を受けて真理の原則に根ざし真理を基とすべきであるが、それは彼らが主の道を守り、正義と公道とを行うためである。伝道の

精神を喚起し、鼓舞するために、あらゆる努力を払いなさい。救いの最後の働きにおいて、その助け手として神に用いられるという彼らに提供された高い特権を強く認識させなさい。各自が、その場所で、魂のために実際に伝道する事により他の人々のために働く事を学ばせなさい。伝道の働きのすべての面で神のみ言葉から教えを求める事を、みんな学びなさい。そうするならば、主のみ言葉が彼らに伝えられる時、それは、神のぶどう園の各部から最上の収穫を神にもたらすような伝道をするための示唆を彼らに与えるのである。

神の目的が遂行される

キリストは、彼の民を通して、全世界が恵みの雰囲気で囲まれるために、満ちあふれる彼ら力によって、彼らを強めたいと望んでおられる。彼の民が、自分自身を真心から神に降伏させる時、この目的が果たされるのである。彼の機関に属する人々に対する主のみ言葉は、「主の器になう者よ、おのれを清く保て」(イザヤ書五二ノ一)である。われわれのすべての機関においては、自己の利益を追求する代わりに、無我の愛を示し、遠近至る所に住む魂のために伝道しなさい。そうするならば、聖い油が、二本のオリブの枝から金の管の中に注がれ、それが、これを受けるために用意された器に注ぎ出されるのである。その時初めて、キリストの働

き人たちの生涯が、本当に彼の言葉を解説するものとなるのである。

神の愛と畏敬の念、彼の恵み深さと神聖さに対する意識が各機関に流れ、愛と平和の雰囲気
が各部に浸透する。語る言葉、行う仕事の一つひとつが、天の与えるような感化を及ぼす。キ
リストが人間の中に宿り、人間がキリストの中に宿るのである。限りある人間の性格ではなく、
無限の神の御品性が働きのすべてに表われる。聖天使たちによって与えられた神聖な感化は働
き人たちに接触する人々の心に印象を与え、これらの働き人たちから、かんばしい影響が広
く及ぼされるのである。

このように訓練された働き人たちは、新しい伝道地に入るように召された時、み働きのた
めに有用な者としての準備ができており、現代の真理の知識を、言葉と模範によって他に与え
る事のできる、救い主の代表として出て行くのである。神の力によって織られた品性の美しい織
物は、天来の光と栄光を受けて、世の人々の前に、生きた神のみ座を指し示す証人として立つ
のである。

そうになると、み働きは堅実性と倍加した力をもって前進する。各部門の働き人たちにあらた
な実力が与えられ、神のメッセンジャーとして送り出される出版物は、永遠の神の印が押され
る。それらが運んで行く尊い真理には、天の聖所から流れる光が射して、いまだかつて無いほ

ど、人々の心に罪の自覚を呼び覚まし、義に飢え渴く気持ちを起こさせ、決して過ぎ去る事のないものに対する強い切望を生じさせる力を発揮するようになる。人々は、メシヤが彼の犠牲によって、もたらして下さった不義のためのあがないと、永遠の義について学ぶ。そして多くの者が、神の子たちの輝かしい自由にあずかるようになり、力と栄光をもって間もなく来られるわれわれの主、救い主を歓迎するために、神の民と立場を共にするのである。

われわれの教派の印刷物

われわれの事業の能力や効果は、われわれの出版所から発行される印刷物の性質によって、大いに影響される。従って、社会に送り出されるものの選択と準備には非常な注意が払われなければならない。最大の慎重さと識別力が必要である。最も純粋な性質で、人を最高に向上させる性格の印刷物を出版するために、われわれのエネルギーは、ささげられなければならない。われわれの定期刊行物は、人々のために、生命にかかわる霊的重要問題である真理を積んで出て行かなければならない。

神は、われわれの手に、「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」(黙示録一四ノ一二)と記した旗を渡された。これは、明確な、人を引き離すメッセージであって、不確実な響きを与えてはならないメッセージである。それは水のはいつていない、こわれた水だめから人々を離して尽きる事のない生命の水の源に導くためのものである。

われわれの出版物の目的

われわれの出版物は、われわれの信仰の靈的な根拠を明らかにし、単純に、わかりやすくするためにしなければならない非常に神聖な務めを持っている。至る所で人々は自分が味方をする側についている。すべての者が、真理と正義の旗の下に並ぶか、または、主権を握ろうとして争っている背教者の旗の下に立つかのどちらかである。この時に当たって、世界に対する神のメッセージは、人々に、真理と直接顔を合わせ、頭脳を合わせ、心を合わせて接触させる程、顕著に、また力をもって与えられなければならない。厳肅な今日の時代のために与えられた神のみ言葉に、もしできれば、とって代わるため、他を押しつけて現われて来ている多くの誤謬に比較して、その優秀さを彼らに見させなければならない。

われわれの出版物の大きな目的は神をほめ、彼のみ言葉の活きた真理に人々の注意を引く事である。神は、われわれ自身の標準や、この世の標準ではなく、神の真理の標準をかかげるよう、われわれに求めておられる。

われわれがそうする時にはじめて、彼のみ手は、われわれを榮えさせる事ができるのである。過去における彼の民に対する神の御取り扱いを考え、彼らが、神の旗をかかげている間、どん

なに神が、敵の前で彼らを高められたかに注目しなさい。しかし、得意になって、忠誠な態度を捨て、神に反対する権力や主義原則を高めた時、彼らは災害や敗北を自分自身に招くままにほうっておかれたのであった。

ダニエルの経験を考えてごらんなさい。ネブカデネザル王の前に立つように呼ばれた時、ダニエルは、彼の知恵の源を認める事にちゅうちよしなかつたのである。忠実に神を認める事が、王宮においてのダニエルの権威を減じたであろうか。絶対にそうではなかつた。それが彼の力の秘訣であつて、それが、バビロンの統治者の目に、彼に対する好意を得させたのである。ダニエルは神の名によつて、王に、天来の教えと警告とけん責のメッセージを伝えたが、彼は拒否されなかつた。今日生存する神の働き人たちは、ダニエルの確固とした大胆なあかしを読み、彼の模範に従いなさい。

人間が神に当然ささげるはずの忠誠と栄誉を、少しでも犠牲にする事によつて、社会に受け入れられ、認められようとする時、それ以上の愚かさを示す事はない。われわれは、神が、われわれと協力して下さる事ができない事情に自分を置く時、われわれの力が弱まる事に気がつくようになる。人間の中に神の像を回復するためになされた事はすべて、神が働き人の実際の力となれたからできたのである。肉体を回復し、知性を活気づけ、心をあらたにする事がで

きるのは、神の力だけである。われわれの出版事業においては、他のすべての伝道部門や、またはクリスチャン生活の場合と同様、「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」(ヨハネ一五ノ五)というキリストのみ言葉の真理が立証される。

神は、すべての人間の力が、そのうちにひざをかがめる不滅の原則を人間にお与えになったが、教えと模範によって、これらの原則を、社会の人々に証明するよう、われわれに呼びかけておられる。彼のみ言葉を忠実に守る事により神をあがめる人々にとって、その結果は輝かしいものである。永遠の年月を通じて、生き続ける原則によって立つという事には大きな意味がある。

従業員が必要としている個人的な経験

われわれの発行する定期刊行物の編集者や、われわれの学校の教師たち、または、部会の部長たちが、みな命の水の川の清い流れから水を飲まなければならない。われわれの主によって、サマリヤの婦人に語られた「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう。……わたしが与える水を飲む者は、いつまでもかわくこと

がないばかりか、わたしが与える水は、その入のうちに泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」(ヨハネ四ノ一〇、一四)というみ言葉を、すべての者が、もっと完全に理解すべきである。

主のみ業は、生活上の一般の仕事から区別されなければならない。「『わたしはまた、わが手をあなたに向け、あなたのかすを灰汁で溶かすように溶かし去り、あなたの混ざり物をすべて取り除く。こうして、あなたのさばきびとをもとのとおり、あなたの議官を初めのとおりに回復する。その後あなたは正義の都、忠信の町となえられる。』シオンは公平をもってあがなわれ、そのうちの悔い改める者は、正義をもってあがなわれる」(イザヤ書一ノ二五―二七)と彼は言っておられる。これらのみ言葉は重要性に満ちていて、編集に携わるすべての者のために教訓を含んでいる。

次のモーセの言葉には深い意味がある。「アロンの子ナダブとアビフとは、おのおのその香炉を取って火をこれに入れ、薫香をその上に盛って、異火を主の前にささげた。これは主の命令に反することであつたので、主の前から火が出て彼らを焼き滅ぼし、彼らは主の前に死んだ。その時モーセはアロンに言った、「主は、こう仰せられた。すなわち『わたしは、わたしに近づく者のうちに、わたしの聖なることを示し、すべての民の前に栄光を現すであろう』」(レ

ビ記一〇ノ一―三)。われわれの出版所から出て行く印刷物を取り扱っているすべての者に対する教訓が、ここに示されている。神聖な事物は一般のものと混同してはならないのである。これ程広く行き渡っている印刷物には、今日存在する普通一般の出版物に見られるよりも、もっと貴重な教訓を載せているべきである。「わらと麦とをくらべることができようか」(エレミヤ書二三ノ二八)。われわれは完全に、もみぎらを除いた純粋な麦がほしいのである。

「主は強いみ手をもって、わたしを捕え、わたしに語り、この民の道に歩まないように、さとして言われた、『この民がすべて陰謀となえるものを陰謀となえてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。またあののいてはならない。あなたがたは、ただ万軍の主を聖として、彼をかしこみ、彼を恐れなければならない。』……あかしを一つにまとめ、教をわが弟子たちのうちに封じておこう。……ただ教とあかしとに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには夜明けがない。(ただ律法と、あかしとを求めなさい。もし、彼らが、この言葉に従って語らないならば、それは彼らに光がないからである―文語訳の意味)」(イザヤ書八ノ一―一三、一六、二〇)。

わたしは、イザヤ書の六章に、われわれの働き人全員の注意を引きたい。主が「高くあげられたみくらに座し、その衣のすそが神殿に満ちている」のを見た時の神の預言者の経験を読み

なさい。「その時わたしは言った、『わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから』。この時セラピムのひとりが火ばしをもって、祭壇の上から取った燃えている炭を手に携え、わたしのところに飛んできて、わたしの口に触れて言った、『見よ、これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた』。わたしはまた主の言われる声を聞いた、『わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか』。そのときわたしは言った、『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください』」（イザヤ書六ノ一、五―八）。

これが、われわれのすべての機関で働く人たちに必要な経験である。彼らは、神との生きたつながりを保って真理で清められる事をし損じる危険がある。

彼らが、真理の力を感じなくなり、神聖なものと普通一般のものとの識別力を失うのは、このようにして起こるのである。

責任の地位にある兄弟がたよ、見る事ができるようになるために、主が、あなたの目に目薬を塗ってくださいただでなく、二本のオリーブの枝から、金の管を通して金の鉢に流れ、聖所のともしび皿を満たす清い油を、あなたの心に注ぎ込んでくださるように。どうか彼が、「知

恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていていっている望みがどんなものであるか、……また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように（エペソー一七―一九）。

忠実な家の主人として、神の家族に、時に応じて、食物を与えなさい。人々に真理を提供しなさい。全宇宙から見られているように働きなさい。時間の余裕はない。一刻の余裕もないのである。間もなく、重大な問題に直面しなければならぬのであるから、われわれは、イエスを見、彼の聖霊によって生かされるために、岩の裂け目にかくされなければならない。

出版のための材料

われわれの定期刊行物は、生命のある、まじめな材料を出版するためにだけ用いるようにしなさい。どの記事も、実際のな、人を向上させ、高尚にする思想、読者に助けとなり、光と力を与える思想で満たしなさい。家庭の宗教、家庭の神聖さが、今日、いまだかつてない程に尊重されなければならない。人々が、神のみ前に、エノクのように歩まなければならない時があったとすれば、今日こそセブンスデー・アドベンチストがそうすべき時であって、彼らの誠実さ

を、純粋な言葉、清潔な言葉、同情心とやさしさと愛にあふれた言葉で示さなければならないのである。

けん責や叱責の言葉が必要な場合もあつて、正しい道から離れた人々を、彼らの危険に気付くように目をさまさせなければならない。彼らの知覚を鎖でつないでいる無感覚さから、はつと気がつくようなメッセージを与えなければならない。道徳的な革新が起こらなければならない。そうでないと、人々は、罪の中で滅びてしまう。真理のメッセージが、鋭い、もろ刃の剣のように刺して心に達するようにさせなさい。無とんちやくな者を覚醒し、愚かな、さ迷っている人の思いを神に帰らせるような訴えをしなさい。

人々の注意を引かなければならない。われわれのメッセージは、いのちからのちに至らせるかありであるか、または死から死に至らせるかありなのである。魂の運命は、はかりにかけられており、多数の人々がさばきの谷にいる。「主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい」(列王紀上一八ノ一二)と叫ぶ声が聞こえなければならぬ。

しかしどんな事情のもとでも、あらあらしい威嚇的な精神を帯びたものを許しておいてはならない。われわれの定期刊行物には、鋭い攻撃や、辛辣な批評や、痛烈な皮肉があつてはなら

ないのである。サタンは、世の中から神の真理を追い出す事に、ほとんど成功をおさめているのであって、これを公然と唱道する者たちが、魂を和らげ、清める真理の影響を受けていない事を示す時に大いに喜ぶのである。

われわれの定期刊行物の筆者は、反対者の異議や議論に関して、できる限り少なく書くようにしなさい。すべての著作の中で、われわれは、真理をもって偽りに対抗しなければならない。あらゆる個人的な当てこすりや、言及、また侮辱に対して真理を語りなさい。天の通貨でだけ取り引きしなさい。神の像と銘のあるものだけを使いなさい。誤りをくつがえし、切り払うためには、新鮮で説得力のある真理を推しすすめなさい。

神は、われわれが常に冷静で忍耐強くあるように望んでおられる。他の人々が、どんな行動をとっても、われわれは、キリストを表わし、同様な事情にあつて彼が取られると思うような行動をとるべきである。救い主の力は、鋭い言葉を並べ立てた強さにはなく、彼に人々の心を勝ち取らせたのは、彼の優しさであり、彼の無我な、もったいぶらない精神であつた。われわれの成功の秘訣も、同じ精神を表わす事によるのである。

一
致

われわれの定期刊行物を通して、人々に語る者は、自分たち自身の間で一致を守らなければならない。意見の相違をにおわせるようなものは何一つ、われわれの定期刊行物の中に発見されてはならない。サタンは、意見の相違を起こさせようと、常に努力しているが、それは、この手段によつて、神のみ働きを、最も効果的に邪魔する事ができるのを、彼は、よく知っているからである。われわれは、彼の考案に席をゆずってはならない。彼の弟子たちのために祈られたキリストの祈りは、「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによつて、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ一七ノ二一)というのであった。神のために働く真の働き人は皆、この祈りに調和して働くのである。み働きの進展のために努力する時、彼らが神の証人であつて、互いに愛し合っている事を、示すような感情と行動の一致を全員が表わすのである。不和と争いで破壊された社会に向かつて、彼らの愛と一致は、彼らの天に対するつながりをあかししているものであつて、それは、彼らの使命の神聖な性質を確信させる証

拠である。

体験の記事

われわれの印刷物の編集者は、伝道地の教役者たちと、各地にいる信者たちの協力が必要である。われわれの印刷物の中には世界各地の働き人たちの生きた体験を語る記事によって彼らからの連絡がなければならない。現実的でない物語は必要としないが、日常生活の中には、短い記事で単純な言葉で語るならば、そのような話よりも魅力的で、同時に、クリスチャンの経験や実際の伝道の働きに計り知れない程貴重な助けとなる真実な体験があるのである。われわれは、献身した男女、また青年たちからの真実な話、純粋な実話を望む。

神を愛し、心に、貴重な経験の数々をたくわえ、永遠の生命の生きた現実を体験している者は、神の民の心に愛と光の炎を燃やさない。人生の問題を処理するために彼らを助けなさい。

多数の読者に読まれる記事は、筆者の肉体と霊と精神の純潔さ、気品、清浄さを表わしているべきである。ペンは、永遠の生命に至る種子をまく手段として、聖霊の支配下になければならない。われわれの印刷物の紙面は実際に価値のある記事で占めるようにし、永遠に重要な事柄で重みのある話題を満たしなさい。神は、彼と語るために、われわれを山へ招いておられる

のであって、目に見えない彼を、信仰によって眺める時、われわれの言葉は、真に、命から命にいたるかおりとなるのである。

今日のためのメッセージ

現在成就しなければならぬ事柄に関し、また、魂の永遠の幸福にかかわる事柄について、すべての者が、もっと多く教え、書き、発表しなさい。老人にも若い者にも、聖徒にも罪人にも、時に応じて食物を与えなさい。教会を眠りから覚醒させるために言える事は、すべて、猶予なく発表しなさい。重要でなく、人々の現在の必要に関係のない事柄を語るために時間を浪費してはならない。黙示録の最初の三節の聖句を読んで、神のみ言葉を信じていると言っている人々に、どんな仕事が無視されているかを悟りなさい。

「イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。ヨハネは、神の言とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである」(黙示録一ノ一三)。

書籍の出版

現代の真理を載せた書籍の出版と配布に、もっと時間を費やしなさい。実際の信仰や敬神について書かれた書物、また、預言のみ言葉を取り扱っている書物に人々の注意を引きなさい。生きた神のみ言葉の光に照らして預言の確かな言葉を読むように、人々を教育しなければならぬ。彼らは、時のしるしが成就しつつある事を知らなければならぬのである。

われわれの出版物の準備においても、または配布においても、成功させる事ができるのは神だけである。信仰によって、われわれが彼の原則を守るならば、彼は、書籍によって益を受ける人々の手に、それを渡すよう、われわれに協力してくださいのである。聖霊は、祈り求め、信頼し、信じなければならない。謙そんで熱心な祈りは、この世のどんな高価な装飾よりも、われわれの書籍の配布を促進するのに力を及ぼす。

神は、人間がつかお事のできる大きな、すばらしい資源を持っておられ、非常に単純な様式で、この神の力は働くのである。神である教師は言っておられる。「わたしの霊だけが、罪について教え、自覚させる力を持っている。外部的な事は、一時的な印象を精神に与えるだけである。わたしは、真理を良心に強く訴える。すると人々は、わたしの証人となり、世界中で、

人間の時間と金銭と知能に対するわたしの当然の要求を主張する。これらはすべて、カルバリーの十字架上で、わたしを買ったのである。わたしが委託したタレントを使って単純な真理を宣べ伝えなさい。福音を全世界におくり、重荷に悩む魂が『わたしは救われるために、何をなすべきでしょうか』と尋ねるように覚醒させなさい。」

価 格

われわれの定期刊行物は、しばらくの間、試験的に非常な低価格で売られていたが、これは、多数の永続的な購読者を獲得するために計画した目的を果たす事に失敗した。これらの努力は、相当の経費をかけて行われ、しばしば損失を伴ったが、最善の動機でなされた事であった。しかし、もし価格を下げなかったら、より多数の永続的な購読者が得られたはずであった。

生産のコストを、それ相当に変えずに、書籍の値段を下げる計画が立てられていたが、これは誤りである。事業は、引き合うような基盤に立って運営して行かなければならないのである。勧誘とか、収賄とか呼ばれるような特別な売り出しをして、書籍の価格を下げないようにしよう。神は、こういう方法を、お認めにはならない。

値段の安い書物に対する要求はあり、この要求には応じなければならないが、正しい計画に

よって、生産のコストを減じなければならないのである。無学な人々や文化が、ある程度おくれた人々のいる、新しい伝道地では、単純な国語で真理を教え、さし絵を多く入れた小さい書物が非常に必要である。これらの書物は安い値段で売られなければならない、当然、さし絵も、安価なものでなければならない。

翻 訳

われわれの印刷物の配布を、世界中に広げるためにはるかに大きな努力が払われなければならない。すべての国々、すべての民に警告が与えられなければならない。われわれの書籍は、多くの異なる国語に翻訳されて出版されなければならない。われわれの信仰に基づく出版物を、英語、ドイツ語、フランス語、デンマーク語、ノルウェー語、スウェーデン語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、その他多くの国語に印刷して、その数を増し、すべての国の人々に光を与え教育しなければならない。それは彼らもまた、この働きに参加するためである。われわれの出版社は全力をあげて、世界に、天の光を放散させなさい。書物の中の書物である聖書に心を向けさせるようなものに、各国、各国語の人々の注意を、できる限りの方法で引きなさい。

書籍委員会のメンバーを選ぶためには非常な注意が払われなければならない。出版するために提出される書籍を審査する人は、少数で、正しく選択された者でなければならない。著作の仕事に関して、経験的な知識のある者だけが、この立場で行動する資格があるのである。その心が神のみ霊に支配されている者だけが選ばれるべきであって、彼らは、祈りの人であり、自己を高めず、神を愛し、恐れ、兄弟たちを尊敬する人でなければならない。自己に頼らず、神の知恵によって導かれているような人々だけが、この重要な地位を占める十分な資格を持っているのである。

商売上の業務

主は、出版所が、現代の真理の宣伝と、この事業に含まれる各方面の仕事を処理するために設立されるよう指示されたが、真理が燭台の上にある光のように家の中のすべてのものを照らすため、彼らは、同時に、世の中と接触を保たなければならない。ダニエルと彼の同僚たちは、神のみ摂理によって、バビロンの高貴な人々と関係を持ったが、それは、これらの人たちがヘブル人の宗教に親しむ事ができ、神がすべての国々を支配しておられる事を知るためであった。

ダニエルは、バビロンで、非常に苦しい立場におかれたが、政治家として忠実に彼の義務を果たしながら、神に手向かうようなどんな事にも携わる事は、きっぱりと拒んだ。この生きかたが論議を呼び、こうして主は、ダニエルの信仰が、バビロン王に気付かれるようにされたのである。神は、ネブカデネザルに与える光を持っておられ、バビロンと他の国々に関する預言の中で予告された事柄をダニエルを通して王に示されたのであった。ネブカデネザルの夢の解き

明かしによって、エホバは、この世の統治者よりも有力な方として高められた。このようにして、ダニエルの誠実さにより、神は名誉を受けられたのである。これと同じように、われわれの出版所が神のために、あかしを立てるよう、主は望んでおられる。

商売上の業務における機会

これらの機関が社会と接触させられる方法の一つは、商売上の業務の中に見いだされる。それによって真理の光が伝えられる門戸が開かれるのである。

働き人たちは、彼らが持っている信仰と主義原則について、まさしく質疑を呼び起こす働きに携わっているながら、自分は、ただ世的な仕事しかしていないと考えているかも知れない。もしも、彼らが正しい精神の持ち主であれば、彼らは、時にかなった言葉を語る事ができる。もしも、天来の真理の光と愛が、彼らの中にあれば、それは輝き出ないわけには行かないのである。彼らが仕事をする態度そのものが、神聖な原則の働いている事を表わす。われわれの働き人たち、職工たちについては、いにしえの人について言われたように、「これに神の霊を満たして、知恵と悟りと知識と諸種の工作に長ぜしめ」(出エジプト記三一ノ三)と言われる事もできるのである。

第一位に立つてはならない

出版施設は、決して、商業のために用いる事を主としてはならない。この働きを第一にすると、出版所に属している者は、これが設立された目的を見失い、彼らの働きは低下する。

靈的知覚の誤ったマネージャーは、ただ収益のために、疑わしいものを出版する契約にはいる危険がある。こういう仕事を引き受ける結果として、出版所が設立された目的は見失われ、機関は他のどんな商業上の企業とも全く同様に見なされ、神は、これによって恥をお受けになるのである。

われわれの出版所の中には、商売上の仕事のために高価な機械や、その他の設備を、たえず増設して行かなければならない所がある。こうして必要になって来る経費は、機関の財源に重い負担となり、大量の仕事のためには設備も増大しなければならぬだけでなく、正しく訓練できる以上に多数の従業員が必要になるのである。

商売上の仕事は、出版所にとって財政上の利益になると主張されているが、ある権威者は、われわれが経営する第一位の出版所で、この仕事の経費について正しい見積もりを行った。彼は、実際の収支決算を出して欠損が収益よりも大きい事を示した。また、この仕事で、従業員

をたえず忙しく働きに駆り立てる事を説明した。急いで駆け回るような雰囲気や世俗的な空気の中では、真の敬虔さや信仰は枯死する。

出版所が全く商売上の仕事の縁を切る必要はない。なぜなら、それは、社会に与えなければならぬ光に対して門戸を閉ざす事になるからである。外部の人々との接触は、政治家としてのダニエルの仕事で、彼の信仰や主義原則を誤らせる事にならなかつたのと同様、従業員にとつて、有害となる必要はないのである。しかし、それが、機関の靈性に妨げとなつてゐる事がわかつた時は、外部の仕事を除外しなさい。真理を代表するような働きを強化しなさい。これを、いつも第一にして、商売上の仕事は第二にしなさい。われわれの働きは、世界に警告とあわれみのメッセージを与えなければならぬのである。

価 格

財政的な困難から出版所を救うために、教会外の購読者を獲得しようとして、利潤の上がないほど価格が低く定められていた。利益があると得意に思つてゐる人々は、すべての支出を厳格に計算してゐなかつたのである。仕事を手に入れるために値段を下げる事はやめなさい。正当な利潤を上げるような仕事だけ、受け付けなさい。

しかし同時に、われわれの仕事の取り引きにおいては、影ほども利己主義や、人を欺く事があつてはならない。相手がだれでも、その人の無知や必要を利用して、なされた働きや、売った品物のために、法外な値段を請求するような事は、だれ一人してはならない。まっすぐな道からそれる強い誘惑があり、実際に不正直な風習にならない、習慣を取り入れる事に賛成するための理屈は無数にあるに相違ない。ある人は、抜け目のない人間と取り引きするためには、習慣にならなければならぬ。もしも完全に正直さを保ったら事業を経営して生計を立てる事はできないと、主張する。神に対する、われわれの信仰は、どこにあるのだろう。彼は、われわれが世の中から出て、彼らと分離し、汚れたものに触れないという条件で、われわれを、彼の息子、娘として受けいれてくださるのである。個人のクリスチャンに対しても、また、彼の機関に対しても、「まず神の国と神の義とを求めなさい」と、み言葉は言っているものであつて、この人生に必要なものは、すべて添えて与えられるという彼のみ約束は確かである。この世の人生においても、また来世の場合も、真の成功は、永遠の正しい原則を、忠実に固守する事によつてのみ得られるという事を、鉄の筆で岩の上に刻むように、良心に記しなさい。

風紀を乱す読み物

われわれの出版所が、商売のための仕事を大量にすると、好ましくない種類の読み物が持ち込まれる大きな危険がある。ある時、これらの問題に、わたしの注意が向けられたが、その時、わたしの案内者（天使）は、出版所の中で責任の地位を占めている人に、「この仕事の支払いとして、あなたは、いくらもうらうのですか」と、たずねた。数字が彼の前に示されたが、彼は、「これは、あまりに少な過ぎます。あなたは、このように事業をしていたら、損をするでしょう。しかし、例え、はるかに多額の支払いを受けても、この種の読み物は、出版してもただ大きな損失を招くだけです。従業員に及ぼす影響は、墮落的で、神が、彼らに送り、み働きの神聖さを示されるメッセージがすべて、このような材料の印刷を承諾したあなたの行為によって無効になってしまいます」と言った。

配布するより焼いてしまったほうがよいような本で社会は氾濫している。金もうけの計画によって出版され、配布されているインディアン戦争や、これと同じような話題の本は、決して読まないほうがよいのである。こういう本の中には、サタンの及ぼす魅力があつて、犯罪や残虐行為の、悲痛な物語が、多くの青年たちを魅惑する力を持ち、最も邪悪な行為によって人々

の注意を自分に引こうとする欲望を起こさせる。より厳格に歴史的であって、その影響が幾分よい著作は、たくさんある。これらの著書の中に描写された無法、残虐、放縱な行為は、多くの人の心にパン種として働き、同様な犯罪を犯すように導くのである。人間のサタンのな行動を描写した書籍は、悪い行いを広告しているのである。恐ろしい犯罪や、悲惨な詳しい話を、もう一度経験して見る必要はないのであって、現代の真理を信じる者は、だれも、そういう記憶を永続させるために役割を果たしてはならない。

恋愛小説や、浮薄で刺激的な物語は、すべての読者にとって、災いであるもう一組の書物である。著者は、よい教訓を結びつけ、また、彼の著作全体を通じて、宗教的な思想を織り込むかも知れないが、大抵の場合、サタンが天使の衣を着ているだけであって、それだけ効果的に欺き、人を誘惑するのである。精神は、これが食するものによって大いに影響される。浮薄で刺激的な物語の読者は、彼らの前にある義務に対して不適格な者になってしまう。彼らは空想的な人生をおくっているものであって、聖書を調べ、天来のマナを食して養われたいという欲望はない。知性は弱り、義務や運命に関する大きな問題を熟考する力を失う。

青年は、不適当な読書によって最大の危険にさらされるという事を、わたしは教えられていた。青年も成人した人たちも共に、無価値な物語で魅せられるように、サタンは絶えず導いて

いる。出版されている書籍の大部分を焼く事が出来たら、知性を弱め、心を腐敗させる恐ろしい働きをしている疫病は、阻止されるはずである。誘惑に会っても安全なほど、正しい原則に立っている人間はいない。これら、すべてのくずのような読書は、決意をもって廃すべきである。

このような出版物の印刷をする事も、販売をする事も、われわれは、主から、許可を与えられていない。なぜなら、それは多くの魂を滅ぼす手段だからである。この問題は、わたしの前に示されていたので、わたしは、自分の書いている事が何であるかを承知している。現代のメッセーヂを信じている人々は、金もうけを考えて、そういう仕事に携わることのないようにしなさい。主は、このようにして得た金銭は無効にしてしまわれる。彼は集める以上に散らしてしまわれるのである。

らい病よりも、もっと人を汚し、エジプトの疫病よりも一層致命的な、さらに別な種類の読み物があって、われわれの出版所は、たえず警戒をしていなければならない。商売上の仕事を引き受ける事によって、サタンの知識そのものを提供する材料が、われわれの機関にはいつて来るのをゆるす事がないよう、彼らに注意させなさい。魂を滅ぼす催眠術や心靈術やオーマカトリック教の教義、またその他の不法の秘密の理論を説く著書は、われわれの出版所内に侵入させないようにしよう。

聖書の権威や純粋性について、疑問を起こさせる種子を、一粒でもまくようなものは、小さい、従業員に取り扱わせないようにしよう。頭脳が、なんでも新しいものなら熱心に捕える青年たちの前に、無神論的な思想を、決して出してはならない。非常に高価な支払いを受けても、そのような著書を出版する事は無限の損失を招く。

このような性格の読み物に、われわれの機関の中を通過させる事は、禁じられた知識の木の実を、従業員の手に渡し、世の人々に提供する事である。それは、神の神聖な事業の進展のため、設置された、その機関の中で、彼の原則を巧妙に植えつけるため、魅力的な知識をもって侵入するようサタンを招待する事になる。こういう性質の読み物を出版する事は、敵の銃に弾丸をつめて、真理に向かって使うように彼らの手に渡すようなものである。われわれの機関のまっただ中で、サタンに従業員の精神を誤らせるような事をさせるならば、イエスが、出版所の中に立たれて、奉仕する彼の天使たちにより、人々の心に働かれると思いますか。印刷機から出て来る真理を、世に警告を与える力とされるであろうか。同じ印刷機からサタンの異教や惑わしの教えが送り出されているのに、神の祝福が、その印刷機から出て来る出版物に、そそがれる事ができるだろうか。「泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあるるか」(ヤコブ三ノ一一)。

われわれの機関のマネージャーたちは、彼らの地位を受け入れる事によって、従業員がその機関の中にいる間に受ける精神的な食物に対して、責任を負うようになる事を認識すべきである。彼らは、われわれの印刷機から出て行く読み物の性質について責任があるのである。彼らは、機関を汚し、従業員を堕落させ、世の人々を迷わせるような読み物を紹介した事によって及ぼした影響に対し、責任を問われる。

もし、そのような読み物が、われわれの機関の中にはいつて来る事をゆるすならば、サタンの思想の巧妙な力は、たやすくは振り捨てられないという事を悟るであろう。誘惑者に、彼の悪の種をまく事をゆるすならば、それは芽生えて実を結び、神のみ働きの進展のために、神の民の資金によって設立された、その機関の中で、彼は収穫物を刈り取らなければならない。それは、クリスチャンの働き人たちの代わりに、教育された一団の無神論者を世におくり出す結果となるのである。

これらの問題において、責任は、マネージャーだけにあるのではなく、従業員たちにもあるのである。われわれの間に設立されている、すべての出版所の働き人たちに対して、言わなければならない事がある。あなたは、神を愛し、恐れているのであるから、神がアダムに警告するように言われた知識に、わずかでも関係する事は拒否しなさい。植字工は、そういう読み物

の文章を植字する事を拒みなさい。校正係は、その校正を、印刷工は印刷する事を、そして製本係は、そういうものを製本する事を拒みなさい。もし、そういう読み物を取り扱うように求められたならば、その機関の従業員の集合を求めなさい。それは、そのような事が何を意味しているかについて理解するためである。機関の責任者たちが、あなたには責任がない、マネージャーが、それらの問題を手配しなければならぬのであると主張するかも知れないが、しかし、あなたには責任があるのであって、あなたの目、あなたの手、あなたの頭脳の使用について責任がある。これらは、サタンの役に立つためではなく、神のために用いるよう、神からあなたに委託されているのである。

神のみ働きに逆らう誤びゅうを載せた読み物が、われわれの出版所で印刷される時、神は、魂を陥れるわなをかけるよう、サタンにゆるした人々だけでなく、誘惑するわざの中で、どんな方法でも協力する者たちに対しても、責任を問われる。

責任の地位にある兄弟たちよ、迷信と異教の車に、あなたの働き人たちを馬具で縛りつけないように注意なさい。命を与える真理を送り出すために、神によって任命された機関が、魂を減ぼす誤びゅうをまき散らす機関とされないようにしなさい。

規模の最も小さいものから、最も大きいものに至るまでわれわれの出版所は、そのような有

害な読み物の一行でも印刷する事を拒否しなさい。サタンの知識を載せた著書は、われわれのすべての機関から排除されている事を、関係者一同にわからせなさい。

われわれは、社会と関係しなければならぬが、それは、われわれが、社会の虚偽によつて感化されるためではなく、神の代理者として、神の真理をもって、社会を感化するためである。

伝道地における出版所

新しい伝道地における働きのセンターを設立するためにしなければならない事がたくさんある。伝道用の印刷所が、多くの地に建設されなければならない。われわれの伝道学校と連絡して、印刷と、この方面で働き人を養成する設備があるべきである。違った国語を使ういろいろな国の人々が養成されている所では、各生徒が、自国語で印刷し、また、英語から、その国語に翻訳する事を学ぶべきである。そして自分が英語を学びながら、自分の国語を習得する必要があるかも知れない英語を話す生徒たちに、自分の国の言葉を教えているべきである。こうして留学生の中のある者は学費を支払う事ができ、また、伝道事業に有益な助けを与えるために働き人を準備する事もできるのである。

多くの場合、出版事業は、小規模で始めなければならない。また、多くの困難と戦わなければならない、少しの設備で経営を進めて行かなければならない。しかし、そのためにだれも失望

する必要はないのである。この世のやりかたは、事業を始める時には、はなやかに見えを張って誇示するが、全部がむだに終わるのであって、神のやりかたは、小さい事の日を、真理と正義の勝利する起点にするのである。こういうわけで、だれも、繁栄した最初の状態で得意になる必要もなく、あるいは、外見的な弱さで力を落とす必要もない。神の民が、目に見えないものに頼る時、神が彼らにとって富であり、満ちあふれる喜びであり、力なのである。彼の指示に従う事は、安全と真の成功の道を選ぶ事である。「わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第一・五ノ四)。

人間の力が神の事業を設立したのではなく、また、人間の力が、これを破壊する事もできない。困難や反対に会いながら、彼のみ事業を前進させて行く人々に対して、神は、絶えず彼の聖天使たちの指導と保護をお与えになる。地上における彼のみ働きは、決して中止しない。彼の霊的な宮の建設は推進され、ついには完成して、「恵みあれ、これに恵みあれ」と呼ばわりながら、かしら石が引き出されるのである。

クリスチャンは、他の人々に対して有益でなければならない。それによって自分自身も益を

受けるのである。「人を潤す者は自分も潤される」(箴言一一ノ二五)。これは、神の管理法則であって、大海の水が絶えず流れて環流し尽きる事がないように、慈善の流れを持続させようと神が計画し、定められた法則である。この法則を実行する所に、クリスチャンの伝道の力があるのである。

み事業を確立し、進展させるために必要な設備が、自己犠牲と、必要に迫られた努力によって与えられ、主が、働きを繁栄させてくださった場合、その所の人々は、新しい伝道地におくられている神のしもべたちを、助けるために、彼らの資力をささげるべきであると、わたしは教えられた。

しっかりした基礎の上に、事業が確立している所では、以前、彼らの地区における働きのために投資された費用の一部、あるいは全部を、たとえば大きな犠牲を払ってでも、融通する事によって、困っている人々を助ける義務がある事を、信者は感じなければならぬ。このようにして、彼のみ働きが拡張するように、主は計画しておられるのであって、これが、正しい返還の法則である。

出版所の相互関係

ぶどうの木と、その枝の象徴によって、彼の信者たちに対するキリストの関係、また、彼の信者相互の関係が例証されている。枝は、みな相互に関係を持っているが、各枝には他の枝に没してしまわない個性がある。そして、すべての枝が、ぶどうの木に対して共通の関係を持ち、生命と成長と、豊かな実りのために、これに頼るのである。彼らは、互いにささえる事はできないのであって、各自が、自分で幹に中心を置かなければならない。各枝は、共通の類似点を持ちながら、また、相違点を示している。彼らの統一性は、彼らが共通して幹につながっている事によるのであって、各枝を通して、全く同様にはないが、ぶどうの木の生命が明らかに表われるのである。

この象徴には、個人のクリスチャンのためだけではなく、神の御用に携わっている機関のためにも教訓がある。各機関が、彼らの相互の関係の中で、その個性を維持すべきである。相互

の結合は、キリストとの結合によつて起こる。各機関が、彼の中にあつて、互いに結び合い、同時に、その機関だけが持つてゐる性格は他の機関のその中に没入しないのである。

われわれの出版所を統合し、実際に、単独の管理下に置く事によつて、み事業の利益は増進すると、時折り力説されて来たが、主は、そうすべきでない事を告示になつた。少数の人の手に権力を集中させたり、一つの機関を他の機関の支配下に置く事は、彼の御計画ではない。

われわれの働きは、初め小さな、非常に小さな小川のようなものである事を、わたしに示された事がある。預言者エゼキエルに、水が、「祭壇の南にある」「宮の敷居の下から、東の方へ」流れている表象が与えられた。エゼキエル書四七章を読み、特に八節に注意しなさい。「彼はわたしに言った、『この水は東の境に流れて行き、アラバに落ち下り、その水が、よどんだ海にはいると、それは清くなる。』」そのようにわれわれの働きも、東に、西に、海の島々に、そして全世界に拡張して行くものとして、わたしに示されたのである。働きが拡張するにつれて、大きい事業を取り扱わなければなくなる。働きは、どこでも一個所に集中させてはならない。すでに風格や勢力が働きに備わつた所に、事業を築いて行くほうが都合がよいと、人間の知恵は主張するが、この点で間違いをしていた。力を与え、発育させるのは、重荷を負う事によるのであつて、いろいろな地方の働き人たちを、大部分の責任から解放するという事

は、彼らの人格が発育せず、能力が抑制されて弱くなるような状態に、彼らを置く事を意味する。働きは主のものであって、力や能力が、どんな一個所にも集中する事は、彼のみ心でないのである。各機関が独立の状態を維持し、神の指示を受けて彼の御計画を遂行するようにさせなさい。

統合強化

統合強化の方針が、とられる所ではどこでも神の代わりに人間を高める傾向がある。各機関で責任を負う人々は、指導と支持を求めて中央の権威者に頼る。個人的な責任感が弱くなると、魂が絶えず神に頼るという、人間のすべての経験の中で最高の非常に貴重なものを失う。自分たちの必要を認識しないので、絶えず目をさまして祈り、絶えず神に降伏する状態を維持しない。しかし、これによってのみ、人間は彼の聖霊の教えを聞いて服従する事ができるのである。神が占めるべき地位に人間が置かれる。天の大使として、この世で行動するように召された人々が、誤る事のない無限の神の知恵と力が得られるにもかかわらず、誤りを犯す限りある人間から知恵を求めて満足している。

主は、彼の機関の従業員たちが、人間に期待したり信頼するように計画してはあられない。神を中心とするように望んでおられるのである。一機関が、他の機関の管理について命令を下

す権利を持つような、相互の關係に、われわれの出版所は決してなつてはならない。このように大きい権力が、少数の人の手に与えられると、サタンは固い決心をもつて努力し、判断を誤らせ、間違つた行動の原則を巧妙に注入し、誤つた方針を導入する。そうする事によつて、彼は一機関を誤らせる事ができるだけでなく、他の機関に対する支配力を獲得する事ができ、遠くに離れた地方の働きを誤つた形に変えてしまう。このようにして悪い影響は広がって行くのである。であるから各機関は、道德的に自主性をもつて立ち、それ自身の伝道地において、自分の働きを遂行して行きなさい。各機関の従業員は、神と彼の聖天使たち、そして、墮落していない世界の人たちから完全に見られて、彼らの仕事をしなければならぬ事を思いなさい。

一機関が間違つた方針を取り入れる事があつても、他の機関が墮落させられないようにし、設立した時に明示した原則に対して眞実を守り、これらの原則に調和して働きを前進させなさい。各機関は、眞理と正義に矛盾しない限り、他のすべての機関と調和して働くように努力すべきである。しかし、それ以上は、どの機関も統合強化の方向に向かつて進んではならない。

競争

われわれの出版所の間で、競争があつてはならない。この精神を、ゆるしておく増大して強くなり、伝道の精神を押し出してしまふ。それは神のみ霊を悲しませ、神の恵みを大事に思う人々の協力者となるために送られた奉仕の天使たちを、機関から追ひ払うのである。

われわれの出版所のマネージャーたちは、絶対に、ほんのわずかでも、互いに他を利用するような事をしてはならない。そういう努力は、神が最も嫌悪される事なのである。抜け目のない取り引き、互いにずる賢い商売の取り引きをしようとする事は、神が我慢なさない不正である。他を犠牲にして、一つの機関を高めようとする事は、みな不正である。一つの機関、あるいは、その従業員の信望を減じるような、すべての非難や、当てこすりは、神のみ心に反するものであつて、そのような事をさせるのはサタンの霊である。それは、一度場所を与えると、パン種のように働いて従業員たちを墮落させ、神の機関に対する神の目的を妨害する。

協力

われわれの働きの、すべての部門、われわれの大きな目的に関係したすべての機関は、思い

やりのある、寛大な方針で経営しなさい。働きの各々が、それ自身の特色を維持しながら、他のすべての部門を保護し、強め、育てて行くように努めなさい。働きの各部分を運営して行くために、さまざまな能力や特質を持った人々が雇用されるが、これが常に主の御計画であつた。各従業員が、自分自身の部門のために特別な努力をしなければならぬが、自分が一員である全体の健康と福祉のために考え、働く事は特権である。

統合強化する事でなく、競争したり非難したりするのでなく、協力する事が、彼の機関のための神の御計画である。それは、「全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に應じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていく」(エペソ四ノ一六)ためである。

文書伝道者

文書伝道者が彼らの負債を支払わないために、トラクト協会が負債に陥り、彼らは、出版社に対する責務を果たす事ができない。こうして、これらの機関は経営が困難になり、その働きは妨げられる。ある文書伝道者たちは、受け取った書籍の代価を即時に支払う事を要求されると、自分が冷遇されたかのように思うが、即時に支払う事が、事業の経営で成功する唯一の方法である。

ある文書伝道者たちが、彼らの働きをして来ただらしのないやりかたは、彼らが重要な教訓を学ばなければならない事を示している。非常にでたらめな働きがわたしに見せられた事がある。ある人々は、この世の事柄について、だらしのないために、不注意や怠慢の習慣ができ、主のみ働きの中に、この欠陥を持ち込んで来たのである。

神は、み働きの各種の部門において決定的な改善を求めておられる。彼の大きな目的に関係

して行われる事業は、より厳格な精密さや正確さを示さなければならない。重要な改革を、もたらすためには、確固とした、決定的な努力がなければならない。

「主のわざを行うことを怠る者はのろわれる」(エレミヤ書四八ノ一〇)。

「あなたがたが盲目の獣を、犠牲にささげるのは悪い事ではないか。また足のなえたもの、病めるものをささげるのは悪い事ではないか。今これをあなたのつかさにささげてみよ。彼はあなたを喜び、あなたを受け入れるであろうか。」「傷のあるものを、主にささげる偽り者はのろわれる。わたしは大いなる王で、わが名は国々のうちに恐れられるべきであると、万軍の主は言われる」(マラキ書一ノ八、一四)。

著 者

神は、人々を彼御自身との直接の關係に導き入れたいと望んでおられる。人間に対する彼のすべての交渉において、彼は、個人的な責任の原則をお認めになるのである。彼は、個人的な信頼感を励まし個人的な指導の必要を強く感じさせようとされる。彼の賜物は、個人としての人間に委託される。すべての人が、神聖な信託財産の管理人とされていて、各自は、与え主の指示に従って彼の財産を支出しなければならない。そして、自分の会計報告を各自が神に提出しなければならないのである。

これらすべてにおいて、神は、人間を神との交わりに導き入れようとしておられるのであるが、それは、この關係を通して、人が神に似た姿に変えられるためである。そうなった時、愛と善良さの主義原則が、その人の性格の一部になる。サタンは、この目的を妨害しようとして、人間に頼る気持ちを強め、人々を人間の奴隷にするために絶えず働いている。こうして人々の

考えを神から離れさせる事に成功すると、彼は、彼自身の、自己中心、憎悪、争いの主義原則を巧みに植えつけるのである。

われわれ相互の間のすべての交渉において、神は、彼に対する個人的な責任と、信頼の原則を注意深く守るように、われわれに望んでおられる。これは、われわれの出版所が、著者との交渉において特に記憶していなければならない原則である。

著者は、自分自身の著作の管理をする権利はない、彼らは、その著作を出版所が部会の支配に引き渡すべきである、また、原稿を書くために使った費用以上は利潤の分け前を要求すべきでない、これは、部会か出版所が、彼らの判断に従って、事業のさまざまな必要に当てるように任せるべきである、などとある人たちは力説していたが、そうする事によって自分の著作に關する著者の管理は、彼自身から完全に他の人々に移されてしまう。

しかし、神は、この問題を、そのようにご覧にはならない。本を書く能力は、他のすべての才能と同じように、神からの賜物であって、所有者は、これを活用する事について神に対し責任があり、彼の指示に従って報酬は投資しなければならないのである。投資するために、われわれに委託されるものは、自分自身の財産ではないという事を、おぼえていよう。もしそうであつたなら、任意に行動する権力を主張する事ができるかも知れず、自分の責任を他の人々に

転じて、自分の管理の義務を彼らに任せる事もできるであろう。しかし、そうする事はできないのである。なぜなら主がわれわれを個人的に彼の管理人とされたからであって、われわれは、この資金を自分自身で投資する責任があるのである。われわれ自身の心が清められなければならない。われわれの手は、神が、われわれに委託された収入の中から、必要な場合に分け与えるものを何か持っているべきである。

兄弟が頭脳を働かせた結果の収入を、部会や出版所が利用する事が妥当ならば、彼の家屋や土地から彼が受ける収入の支配権を握るのも同じく妥当であろう。

また、出版所の従業員が、自分の労働の報酬を受けるから、彼の肉体と頭脳と魂の力は全的に、その機関に属し、彼の著作のすべてに対して、それは権利を持っている、という主張にも正当さはない。機関の中で働く時間の他に、従業員が持つ時間は、機関に対する彼の義務に抵触しない限り、彼が適当と思うように用いる自由があるのである。これらの時間に彼が生産するものについては、彼自身の良心と神に対して、彼は責任があるのである。一人の人間が、他の人間の才能を自分の絶対的な支配下に置く事以上に、神に対して大きな侮辱を与える事はできない。この罪悪は、取り引きの収益が神の目的のために用いられるという事実によって除かれるものではない。そういう取りきめの中では、自分の精神を他の人の精神によって支配さ

れるように許す人間が、それによって神から離れ、誘惑にさらされる。自分の管理する責任を他の人々に転じ、彼らの知恵に頼る事によって、彼は神の地位に人間を置いているのである。このような責任の転嫁を、もたらそうとする者は、彼らの行動の結果について盲目になっている。しかし、神は明白に、それを、われわれの前に示しておられる。彼は「おおよそ人を頼みとし肉なる者を自分の腕とし……ている人は、のろわれる」(エレミヤ書一七ノ五)と仰せになる。

著者たちに、彼らが書いた書物の権利を人に与えるとか、売り渡す事はすすめないようにしよう。彼らの著作の利潤のうち正当な分け前を彼らに与え、そうして後、彼らの金銭は神からの委託財産と見て、彼から授けられる知恵に従って管理するようにさせなさい。

著作の能力を持っている人々は、彼らが受ける収入を投資する能力も持っている事を認識すべきである。み事業の全般的な必要を満たすために、その一部を会計に入れる事は、彼らにとって正しい事であるが、働きの必要を自分でよく知って、神に知恵を祈り求めながら、必要最大の場合に、彼らの金銭を個人で分与する事が、彼らの義務であると思うべきである。彼らに慈善の働きの何かの分野で率先するようにさせなさい。もし彼らの精神が、聖霊の指示を受けていれば、どこに資金が必要であるかを感知する知恵が与えられ、その窮乏を救う事によって

彼らは大いに祝福されるであろう。

もし主の御計画どおりになされていたならば、現在とは違った状態になっていたであろう。余りにも多くの資金を、ほんのわずかの地域のために使ってしまったて、いまだに真理の旗が掲げられていない非常に多くの地域に対する投資のためにはほとんど残っていない、というようなことはなかったはずである。

われわれの出版社は、神の働き人たちとの交渉において、誤った原則に支配されないように注意しなさい。聖霊によって心が支配されていない人々が、機関に属していると、彼らは、必ず、間違った方向に働きを進ませてしまう。クリスチャンであると公言しているある人たちは、主のみ働きに付属した事業を、宗教的な奉仕とは全然別なもののように考え、「宗教は宗教、事業は事業だ。われわれが取り扱うものは成功させようと、われわれは固く決心しているので、この特別な方面の働きを促進するために、得られるだけの便宜をつかむ」と言う。それは、よい働きであるから、また神の御目的の進展のために、あれやこれやとなされなければならないからという弁解のもとに、こうして、真理と正義に反する計画が取り入れられる。

利己主義のために偏狭で先が見えなくなつた人たちは、神がお与えになつた光を広く照らすために、神が用いておられるその人々を押し出す事を、彼らの特権だと思っている。神によつ

て自由な状態にあるべき働き人たちが、圧制的な計画により、単に彼らの同労者に過ぎない人々の制限で束縛されていたのである。こういう事はみな神でなく人間的な特徴を示している。それは、不正や、圧制に至らせる人間の創案である。神の御事業には、どんな不正な汚点もないのである。それは、彼の家族のメンバーから、彼らの個性や彼らの権利を奪う事によって利益を得ようとはしない。主は、専横的な権力を、容認されないし、また、少しでも利己主義であったり、人をだましたりする事には助けをお与えにならない。彼にとって、そのような行動は、すべて嫌悪される事なのである。

彼は「強奪と邪悪を憎み」「あなたの家に大小二種のますをおいてはならない。不足のない正しい重り石を待ち、また不足のない正しいますを持たなければならない。……すべてこのような不正をする者を、あなたの神、主が憎まれるからである」(イザヤ書六一ノ八、申命記二五ノ一四―一六)と宣言される。

「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」(ミカ書六ノ八)。

これらの原則が最もよく適用される事柄の一つは、人間が自分自身の精神を支配し、自分の

才能を管理する、その人自身にとっての人権、そして自分の労働の成果を受け、また分け与える権利を認める事である。われわれの機関は、人間同士に対する彼らのすべての関係において、これらの原則を認める時にだけ、すなわち彼らの交渉において、神のみ言葉の教えに注意する時にだけ力と権威があるのである。

肉体、知能、あるいは靈性のいずれであっても、神によってわれわれに委託されたすべての能力は、無知のまま滅んで行く人間同士を救うように、われわれに指定された働きをするため、神聖な気持ちで大事に育てるべきである。すべての人間が、拘束されずに自分の持ち場について、各自が謙そんに主に仕え、自分自身の仕事に対して責任を果たさなければならない。「何をするにも、人に対してではなく、主に對してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。」彼は「おのおのに、そのわざにしたがって報いられる」(コロサイ三ノ二三、二四、ローマ二ノ六)。

サタンは手腕を働かせて、彼の目的を果たすために、数限りなく計画や方法を考案している。彼は、宗教の自由を抑制し、宗教界に一種の奴隷制度を持ち込もうと働くのである。組織や機関は、神の力によって守られなければ、サタンの命令に従って働き、人間を人間の支配に従わせる。そして、欺まんや、こうかつさが真理のため、神の国の発展のための熱心さのような外観を呈するのである。われわれの常習的行為の中で、なんでも、ま昼のようにあからさまな事でないものは、悪魔の方法に所属する。

人は、間違った前提で始まって誤りに陥り、それから、あらゆる努力を傾注して、その誤りが正しい事を証明しようとする。時には、最初の原理に多少の真理があつて誤りと織り混ざっている。しかし、それは正しい行動に導かない。人々が惑わされるのは、そのためである。彼らは支配して有力者になりたいと望み、自分たちの原理を正当であると証明しようと努力して、サタンの方法を取り入れる。

主が、おくられる警告に人々が抵抗するならば、彼らは悪い策略のリーダーにさえなるのである。そういう人々は神の特権を行使する立場を取る、——彼らは、人間の精神を支配するために神御自身もされない事をさしでがましくするのである。このようにして彼らは、ローマ・カトリック教の道をたどる。彼らは自分の方法や計画を紹介して、神に関する彼らの誤解によって、他の人々の真理に対する信仰を弱め、パン種のように働いて機関や教会を汚し、墮落させる偽りの原理を持ち込む。

正義や公平や偏見のない判断に関する人間の概念を低下させるものは何でも、また神の代理者である働き人たちを、人間の考えに支配させるどんな方策も教えも、神に対する彼らの信仰を害し、魂を彼から離れさせるものである。

神は、人間が非常にわずかでも、人間同士を支配し、あるいは圧制するための方策をすべて擁護されない。人が他の人間のために冷酷な規則を作り始めるや否や神をはずかしめ、自身身の魂と彼の兄弟たちの魂を危険に陥れる。

教会と出版所

出版所に対する教会の義務

われわれの出版所が、その地域内に設けられている教会の会員は、主の特別な、器を彼らに持っている事によって、名誉が与えられているのである。彼らは、この名誉を感謝し、それが、非常に神聖な責任を意味する事を認識すべきである。彼らの影響や模範は、機関がその使命を果たすうえで、大いに助けにもなり、あるいは妨げにもなる。

われわれが、最後の危機に近づく時、主の器である機関の間に調和と一致の存在する事が非常に重要事である。世界は、波乱と戦争と不和で満ちている。しかも、一つの頭、――法王権の下で、人々は、一致結合し、神の証人たちの身になって、仕打ちを受けられる神に反対する。この結合は、大背教者によって固められる。彼は、真理と戦うように自分の代理者たちを一致

結合させようとする一方、真理を唱道する者たちを分裂させ、散らそうと働く。ねたみ、さい
 疑心、悪口などが、不和や、あつれきを起こすために、彼によって誘発される。キリストの教
 会の会員たちは、魂の敵の目的を妨害する力を持っているのである。このような時に、彼らが
 相互に、または、主の働人のだれとも、不和な状態でいないようにしなさい。一般にあつれき
 の多い世の中で、一か所だけは聖書を生活の案内にしているために、調和と一致が存在する場
 所としなさい。神の民は、彼の器である機関を強化する責任が彼らに課せられている事を感じ
 なさい。

兄弟姉妹がたよ、あなたがたが、出版所をまごころをもってささえ、あなたの祈りと資力に
 よって力づけて行くならば主は、お喜びになるのである。出版所が、神の最も豊かな祝福を受
 けられるように、朝夕祈りなさい。非難や苦情は助長しないようにしなさい。不平やつぶやき
 は、あなたのくちびるから出してはならない。天使たちが、それらの言葉を聞かれる事を、お
 ぼえなさい。これらの機関が神の指定によるものである事をすべての者が悟らなければならな
 い。自分自身の利害のために、それらをけなす者は、神に対して申し開きをしなければならな
 い。彼は、彼の働きに関係したすべての事が、神聖なものとして取り扱われるように志してお
 られる。

神は、われわれが祈る事をずっと多くし、語る事はずっと少なくするよう望んでおられる。天の入口は彼の栄光の輝きで充滿していて、彼と正しい関係で立っているすべての者の心の中に、この光がさし込むように、彼はなさるのである。

すべての機関が、困難と戦わなければならない。試練は、神の民の心を、ためすために許されるものであって、主の器である機関の一つに艱難が降りかかった時、われわれが、神と彼の働きに対して、どれだけ本当の信仰を持っているかが表われる。そういう時には、だれも事情を最も悪く解釈して、疑惑や不信仰を表現しないようにしなさい。責任の重荷を負っている人々を非難してはならない。あなたの家庭内での会話が、主の働き人たちの非難で毒されないようにしなさい。非難の精神をほしのままにする両親は、子供たちに、救いに至る知恵を与えるものを提供していないのである。彼らの言葉は、子供たちだけでなく、年長の者たちの信仰と信頼を動揺させる傾向があり、すべての者が神聖な事物に対する尊敬や畏敬の念に欠けている。サタンは、非難する者と非常に熱心に結合して、不信、羨望、しつと、そして不敬の念を育てる。サタンは、彼の精神を人間にしみ込ませ、兄弟間で大切にしなければならぬ愛を消滅させ、信頼心を失わせ、ねたみや、さい疑心や、言い争いを起こさせるために、絶えず働いている。われわれが彼の協力者として行動している事がないようにしよう。彼の暗示に心を開

いた一人の人間が、多くの不満の種をまくかも知れない。そうして魂を破滅に至らせる働きをするかも知れないのであって、その働きは、最後の大きな審判の日まで完全に明らかにされないものである。

キリストは「わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまづかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。この世は、罪の誘惑があるから、わざわざいである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわざいである」(マタイ一八ノ六、七)と、言っておられる。この点で大きな責任が、教会員たちに課せられている。信仰に日の浅い者たちの魂に対する怠慢により、また、サタンにそそのかされて疑惑や不信の種をまく事によって、彼らが、魂を滅ぼした罪に問われる事がないよう気をつけなさい。「足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい。すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。気をつけて、神の恵みからもれることがないように、また、苦い根がはえ出て、あなたがたを悩まし、それによって多くの人が汚されることのないようにしなさい」(ヘブル一二ノ一三―一五)。

サタンの代理者たちの力は大きいから、主は彼の民が、互いに力づけるよう呼びかけてあら

れる。「あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ」サタンと協力する代わりに、すべての者が、神と協力する事の意味を学びなさい。今日の、意気消沈しやすい時代に、なされなければならない働きが神には、おありになるのであって、それにはわれわれが、互いにささえ合う事ができる確固とした勇気と信仰が必要なのである。すべての者が、神と共に働く者として、肩と肩を並べ、心を合わせて立たなければならない。失望的な事が、四方八方から押し寄せてくる時、もし、教会員たちが、一つになって立ち上がり、彼らの祈りと感化力によって彼の働き人たちをささえ、助けるならば、神の恵みの中にあって、また、神の恵みを通してできない事があるだろうか。その時こそ、忠実な管理人として働くべき時である。

われわれの兄弟姉妹たちは、主の器である機関について、非難や、けん責の代わりに、励ましと信頼の言葉を語りなさい。神は、重荷を負っている人々の心を励ますように、彼らに呼びかけておられる。なぜならば、彼は彼らと共に働いておられるからである。神は、彼の民が、彼の器である機関の中で、これをささえている力を認めるように求めておられる。主の機関が持つべき影響力を、これに与えるため、あなたの力の限りを尽くして努力する事により主に栄光をささげなさい。

機会がある時には、働き人たちに話しかけなさい。力になり、インスピレーションになる言

葉を語りなさい。われわれは、お互いについて全く無関心過ぎる。われわれは、同労者たちが力と激励を必要としている事を、あまりにもしばしば忘れる。重荷を負って特に困っている時は、心を配って、あなたが関心と同情を持っている事を保証してあげなさい。祈りによって彼らを助けようとしている時、あなたがそうしている事を彼らに知らせなさい。「強く、また雄雄しくあれ」(ヨシユア記一ノ六)という、働き人たちへの神のメッセージをおくりなさい。

われわれの機関のマネージャーたちには、秩序を維持し、彼らの監督下にある青年たちを、賢く訓練するための非常に困難な仕事がある。教会員たちは彼らの手をささえるために、できる事がたくさんあるのである。青年が、機関の規律に従いたくない時、あるいは、上司と何か意見の相違で、自分の好きなようにしようと決めている時、両親は、盲目的に子供たちを支持し、同情してはならない。

あなたの子供たちが、真理に対し、同じ人間同士に対し、また神に対する忠誠の真に根底にある原則を、軽率に扱うように教えられるよりは、彼らが苦しむ方がましで墓に葬られた方が、はるかによいのである。

彼らの責任を持っている人々と問題があつた場合は、直接、当局者の所に行つて、事実を学びなさい。各部門の管理者は、どの規則が重要であるかについて、他の人たちよりも、はるか

によく理解している事をおぼえ、彼らの判断に対して信頼を示し、彼らの権威を尊重しなさい。責任の地位に就ける事によって、神が敬意を示し面目をお与えになっている人々を、尊敬し尊ぶように、あなたの子供たちを教えなさい。教会の会員たちが、各自の家庭で、正しい秩序と訓練の模範を示す事以上に、われわれの出版所で働く管理者たちの努力を、効果的に支持する方法はないのである。両親は、彼らの子供たちに希望する状態の実例を、彼らの言葉と行動によつて子供たちに示しなさい。純正な言葉と真のクリスチャンの礼儀を絶えず守りなさい。罪を奨励したり、悪口を言ったり、悪い憶測をしたりしてはならない。子供や青年たちに、自尊心を持ち、原則に忠実であり、神に対して誠実であるように教えなさい。神の戒めと家庭の規則を尊重し、これに服従するように教えなさい。そうすれば彼らは、彼らの生涯に、これらの原則を実行し、他の人々とのすべての交わりに、これを実践するであろう。彼らは、自分を愛するように彼らの隣人を愛し、清らかな雰囲気をかもし、人を清さと天に導く道に弱い魂を励まして行くような感化を及ぼすであろう。

このような指導を受ける子供たちは、われわれの機関の中で、重荷になったり、心配の原因にはならない。彼らは、責任を負っている人たちのささえになる。正しい指導のもとで、彼らは責任の立場に立つための準備ができ、言葉と行動によって、正しい事をするように絶えず他

の人々を助ける。自分自身の才能については正しい評価を下し、肉体と知能と霊的な能力をも有益に使用する。このような魂は、誘惑に対して防備されていて、たやすく負かされる事がない。そういう人物は神の祝福を受けて、光になう者であり、彼らの感化は、他の人たちを実業の人生、すなわち、実際のクリスチャン生涯をおくるために教育する助けとなるのである。

教会員たちは、魂に対するキリストの愛に満たされ、彼らの特権と機会に目ざめるならば、われわれの機関の青年たちに、計り知れない有益な感化を及ぼす事ができる。家庭において、仕事において、また教会において彼らが表わす忠実さの模範と、社会的な親切さやクリスチャンとしての礼儀の現われが、青年たちの霊的な幸福に対する真実な関心と併合して、この世と来世における神と人への奉仕のために、これらの青年たちの品性を形成するのに大いに貢献するのである。

教会に対する出版所の義務

教会が出版所に対して責任があるように、出版所もまた教会に対して責任があるのであって、互いに他を支持しなければならない。

出版所で責任の地位にある人々は、自分が、あまり仕事におわれて、靈的な興味を維持するための時間がなくなるような事を自分にさせてはならない。この興味が出版所の中で生かされている時、それは有力な感化を教会内に及ぼし、それが教会の中で生かされていれば、出版所内に強い影響を及ぼす。み働きが、そのように行われると、神の祝福がその上に宿り、魂はキリストに導かれるのである。

キリストのみ名を公言する出版所の従業員はみな、教会の働き人でなければならない。彼らが恵みのすべての手段を利用する事は、彼ら自身の靈的生命にとって必須である。彼らは、傍観者として立っているのではなく、働く者となって力を得るのである。全員が、教会に関係した何かの方面の定期的な組織立った働きに参加すべきである。クリスチャンとして、これが彼らの義務である事を、認識すべきである。バプテスマの誓約によって彼らは、キリストの教会を育てるために彼らの全力を尽くす事を誓っているのである。彼らの贖い主に対する愛と忠誠、真の男子、女子の規準に対する忠誠、彼らが属する機関に対する忠誠が、これを要求する事を彼らに示しなさい。これらの義務を怠っている間、彼らは、キリストの忠実なしもべではあり得ないし、真に高潔な男女でもなく、神の機関で受けられる働き人でもあり得ない。

機関のいろいろな部門で働く管理者は、青年たちが、これらの点で正しい習慣を形成するよ

うに特別に力を入れるべきである。教会の集会がおろそかにされたり、その働きに関係した義務が果たされないままにされている時には、原因を確かめなさい。親切で気のきいた努力によって、不注意な者を覚醒させ、衰えて行く関心を生き返らせるように努めなさい。

だれも自分自身の仕事を持って、主の神聖な働きを怠る申し訳にしてはならない。神に対する義務を怠るよりは、自分自身に関する仕事をさしおいた方が、はるかによいのである。

出版所で責任を任されている兄弟たちへ

わたしは、われわれの年次集会、単に事務に関する集会だけでなく、あなたがたの霊的啓発のためになる集会に出席する事の重要性を、あなたがたに強く訴える。あなたがたは、天と密接なつながりを持つ事の必要性を認識していない。このつながりなしには、あなたがたのうち、だれ一人安全ではないし、だれ一人、神のみ働きを満足にする資格はないのである。

世の中のどんな事業にも増して、この働きにおいての成功は、働きをするための献身と自己犠牲の精神に比例する。み働きの中で管理者として責任を負っている人々は、神のみ霊によつ

て深い感動を受ける事ができるような事情に自分自身を置かなければならない。あなたの責任の地位が、一般の従業員よりも大きい責任を伴うものであるから、それだけでもっと、聖霊のバプテスマを受け、神とキリストを知る事を、他の人々以上に熱心に切望すべきである。

先天的、また後天的な才能は、すべて神の賜物であって、絶えず彼のみ霊の支配下に置き、彼の神聖な清めの力の統制下におかなければならない。あなたがたは、この働きにおけるあなたの経験の足りなさを、最も深く感じ、必要な知識と知恵を得るために熱心な努力をしなければならぬが、それは、心身の全能力を、神の御栄光になるように用いるためである。

「わたしは新しい心をあなたがたに与える」、キリストは、血液が体内にあるように、あなたの心に住み、生命を与える力として、そこに循環しなければならぬ。われわれは、この問題を力説し過ぎる事はないのである。真理は、われわれのよき、かぶとでなければならぬが、われわれの信念は、キリストの生涯を特徴づけた生きた同情心によって強められる必要がある。もしも、生きた真理が、品性の中に例示されていなければ、だれも立つ事はできない。われわれを確固不動な者にし、あるいは、そのように保つ事のできる力は、ただ一つであって、それは真理のうちにある神の恵みである。何か他のものに信頼する者は、すでに、よろめいていて、まさに倒れようとしているのである。

主は、あなたが彼に頼るように望んでおられる。光に接するために、あらゆる機会をできる限り利用しなさい。神から来る清い感化から離れているならば、どうして、霊的な事をあなたは認識できるだろう。

神は、彼のみ働きのための備えをさせるすべての機会を利用するように、われわれに呼びかけておられる。彼は、あなたが、その実行に、あなたの全精力を投入し、その神聖さと、その恐るべき責任を、あなたの心がいつも感じているように期待しておられる。神は、あなたの上に目をとめておられる。あなたがたのうち、だれであっても、彼の目前に傷ものの犠牲、研究も祈りも要さなかった犠牲を持って来る事は、安全ではない。そういうささげものを、彼は、お受けになる事はできないのである。

わたしは、あなたが目をさまして、自分で神を求めるように懇願する。ナザレのイエスが、お通りになっておられる間に、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください」と、非常に熱心に叫び求めなさい。そうするなら、あなたは見えるようになるであろう。神の恵みによって、あなたは、あなたにとって金や銀や宝石よりも価値のあるものを与えられるのである。

他のどんな時よりも、人が神との接続を維持しなければならぬ時があるとすれば、それは、彼らが、特別な責任を負うように求められた時である。戦争に行く時に武器を捨てる事は、われわれにとって安全ではない。その時こそ、われわれは、神のすべての武具をもって装備しなければならぬのであって、どの武具も皆欠く事ができない。

自分の中に閉じこもっていながらクリスチャンである事ができる、という考えは決して持つていてはならない。各自が、人類の大きな織物の一部であって、あなたの経験の性格や素質は、あなたが交際する人々の経験によって大いに決定される。イエスは「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」(マタイ一八ノ二〇)と言っておられる。であるから、ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。

教会の親睦会は、できるだけ興味深いものにし、出席者は皆、その集まりで、しなければならぬ義務のある事を感じなさい。すべての働き人に正しい印象を与えようとしている天使たちと協力しなさい。

神の器の神聖さ

作業場や工場、あるいは穀類畑のような事業の一般企業と、特に神の一大目的の発展のために設立された機関との間の、相違がわからない人々がたくさんある。しかし、古代に神が神聖なものとは一般のものとの間、清いものと汚れたものとの間におかれた同じ相違が存在するのであるが、この区別を、彼は、われわれの機関の全従業員が認めて正しく真価を悟るように望んでおられる。われわれの出版所で職についている人々は、大きな名誉が与えられているのである。また、神聖な責任が課せられており、彼らは、神と共に働く者となるために召されているのである。彼らは、天の器である機関と、それ程近い関係を持つ機会に恵まれた事を感謝し、主の施設に彼らの能力をささげ、たゆまず気を配って奉仕できる事を、与えられた大きな特権とすべきである。彼らは、出版所を神のお望み通りのもの、すなわち、世の光、彼の忠実な証人、第四条の戒めの安息日の記念碑、とするために、活気のある意志と、非常に高い抱負と

熱意とを持つべきである。

「主はわが口を鋭利なつるぎとなし、わたしをみ手の陰にかくし、とぎすました矢となして、
箴にわたしを隠された。また、わたしに言われた、『あなたはわがしもべ、わが栄光をあらわ
すべきイスラエルである。……あなたがわがしもべとなって、ヤコブのもろもろの部族をおこ
し、イスラエルのうちの残った者を帰らせることは、いとも軽い事である。わたしはあなたを、
もろもろの国人の光となして、わが救を地の果にまでいたらせよう』と。」（ヘイザヤ書四九ノ二
―六―）

これは、彼によって指定された機関と、どのようにでも関係しているすべての者に対する主
のみ言葉である。彼らは、光の照る道につれて来られたのであるから、神に恵まれているので
ある。彼らは、神の特別な働きに携わっているのであって、これを些細な事と思ってはならな
い。彼らの神聖な責任の地位に比例して責任感と献身的な思いを持つべきである。安っぽい、
通俗な話や、不まじめな行動は許しておいてはならない。その場所の神聖さを感じる気持を奨励
し、育てるべきである。

彼が指定されたこの器を、主は絶えず注意深く守っておられる。機械は、その操縦に巧みな人たちによって運転されるかも知れないが、一本の小さなねじや、機械の一小部分が故障を起こしたまま、放っておく事は、どんなに容易な事であり、その結果は、なんと悲惨な事になり得るだろう。だれが災害を防いで下さったのであろうか。神の天使たちは、み働きを監督しておられるのである。もし、機械を運転している人々の目が開かれる事ができたなら、彼らは天来の保護者を認めるであろう。仕事をしている出版所のすべての室に、証人がいて、仕事をする精神に注意し、表わされる忠誠心と無我な精神に目を止めておられるのである。

神が彼の機関をご覧になる見方を、わたしが示す事に失敗していたならば、すなわち、彼が、それを通して特別な方法で働かれるセンターとして示す事ができなかったら、どうぞ彼が、これらの事を彼の清いみ霊によって、あなたの頭脳に描写して下さいるように願う。それは、あなたが、通俗な仕事と神聖な働きの相違を理解するためである。

教会員も出版所の従業員も、神と共に働く者として、彼の機関を保護するために果たさなければならぬ役割がある事を感じるべきである。彼らは、あらゆる方面でその利益を守る忠実な保護者となり、損失や災害だけでなく、神聖さを汚し、あるいは、悪に染まらせ得るすべてのものから、これを守るように努めなければならない。決して彼らの行動によって、その良い名声が曇らされてはならないのであって、ちょっとした不注意な批判や非難によってでも、そうしてはならない。神の機関は、神聖な委託財産として彼らに見なされ、契約の箱が古代のイスラエル人によって守られたように、大切に守られなければならないのである。

出版所の従業員たちが、この重要なセンターを、神に関係し、彼の監督下にあるものとして考えるように教育される時、彼らが、それを天来の光の世に伝達されなければならない通路であることと認識する時、彼らは、非常な尊敬と敬けんな気持ちで、これを見るようになる。彼らが働いている時、天使たちの協力を得るため、彼らは最も良い思想と、最も高尚な感情を大事に心にいだく。その目があまりにも清いので悪を見るに耐えられない天使たちの前にいる事を従業員たちが認識する時、思想も言葉も行動も非常に控え目になる。「わたしを尊ぶ者を、わたし

は尊び」(サムエル記上二ノ三〇)と主は言っておられるので、彼らは、道徳的な力が与えられる。全従業員が、貴重な経験をして、事情に左右されない信仰と力を持つようになる。そしてすべての者が、「主がこの所におられる」と言えるようになるのである。

神への信頼

われわれの機関の従業員が、教えられなければならない第一の教訓は、神へのよりたのむことの教えである。彼らがどの方面で成功するためにも、まず自分で、キリストのみ言葉の中の「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」という真理を受け入れなければならぬ。

正義は、神に対する深い信仰の中に根を下ろしている。どんな人間も、神を信じて、彼と生きたつながりを維持している時以外は、正しくないのである。野の花がその根を土に下ろし、空気や露や雨や日光を受けなければならぬように、われわれも神から、魂の生命の必要を満たすものを受けなければならない。われわれは、彼の御性質にあずかる者となって初めて、彼の戒めに従う力を受けるのである。身分の高低、経験の多少によらず、だれでも、その生命がキリストとともに神のうちに隠されているのでなければ、人々の前に、純潔で力強い生涯を着

実に維持して行く事はできない。人々の間の活動が激しければ激しいほど、神との心の交わりは密接でなければならない。

出版所の従業員は、宗教的な面で教育されなければならないと主は指示を与えておられる。

この働きは、財政的な利益よりも、計り知れないほど大きな重要性のあるものであって、働きの人の霊的健康は第一に考慮すべき問題である。毎朝、祈りをもって、あなたの仕事を始めるために時間を取りなさい。これをむだな時間だと考えてはならない。それは、永遠を通じて残る時間である。この方法によって、成功と霊的な勝利がもたらされる。機械は、主のみによって動かされる。神の祝福は、確かに求めるだけの価値があるものであって、働きは、始まりが正しくなければ、正しく行われ得ないのである。主が有効にお用いになる事ができるためには、すべての従業員の手が強められ、心が清められなければならない。

もしも、われわれが真のクリスチャン生涯をおくりたければ、良心は神のみ言葉との絶え間ない接触によって生かされなければならない。神が、無限の代価を支払って、われわれのために備えて下さった、すべての尊いものも、われわれが、それらを自分のものにしなければ、われわれに何の役にも立たず、われわれを強くして霊的に成長させる事はできない。われわれは神のみ言葉を食して、それを自分自身の一部としなければならない。

聖書を学ぶために、小さい集団が夕方、正午、あるいは早朝に集まりなさい。聖霊によって力づけられ、啓発され、清められるために、祈りの時間を持ちなさい。キリストは、すべての従業員の心のうちに、この働きがなされるように望んでおられるのである。それを受けるために、あなたが自分で戸を開くならば、大きな祝福があなたを訪れるであろう。神のみ使いたちは、あなたがたの集まりに臨み、あなたは命の木の葉を食して養われる。神の祝福を求めるこれらの尊い時間に、あなたの同労者たちと知り合った愛のよしみについて、どんなあかしを、あなたは立てられるであろう。各自が自分の体験を単純な言葉で話しなさい。これは、教会に持ち込む事のできるどんな気持の良い音楽よりも魂に慰めと喜びをもたらす。キリストは、あなたの心の中においてはいりになる。この方法によってのみ、あなたは、あなたの高潔さを保つ事ができるのである。

主を求めるために費やされる時間は浪費である、多くの者が考えているようであるが、彼が、はいつて来られて人間の努力と協力し、男女が彼と協力する時著しい変化が働きとその結果に見られる。義の太陽の輝く光に照らされた心は皆、声にも、考えにも、また品性にも、神のみ霊の働きを表わすのである。機械は、名人の手で油がさされ、導かれているかのように回転する。従業員の精神が、二本のオリーブの枝から油を受ける時、摩擦は少なくなる。親切で

やさしい、愛と励ましの言葉によって、清い感化が他の人々に及ぼされるようになるのである。

見習生たちが信仰に入るよう、神を恐れる伝道者によって、彼らのために熱心な努力が払われなければならない。彼らは、真理について注意深く教えられなければならない。毎日、聖書を勉強するように励まされ、彼らとともに、それを読んで研究する教師がいなければならない。聖霊の教えのもとで聖書を学ぶ結果、だんだんに増して行くキリストを知る知識は、これを受ける者に、人生のあらゆる問題で、正、不正を識別する力を与える。われわれの出版所につらなっている人々が、この知識を得、真理に根ざし、真理を基とするならば、彼らは主の道を守り、正義と公道とを行うであろう。

出版所、また、神のみ働きのすべての部門において、神聖な事物を取り扱っている人々は、彼らの知能と道德の力のエネルギーを最高に発揮すべきである。彼らは人間の意志でなく、神のみ心を絶えず学ばなければならない。彼の恵みが、彼らのすべての働きの中に表われなければ

ばならないのである。

われわれは「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」(ローマー二ノ一一)る者でなければならぬ。われわれは働きに活動的でなければならぬが、このエネルギーにもう一つの要素、―神のために働く生きた熱意が加わらなければならぬ。日常の働きの中に、われわれは、献身と信心深さと敬けんな態度を取り入れなければならぬ。もしも、これなしに、あなたの事業を経営して行くならば、あなたは生涯で最大の誤りを犯し、神に仕えると公言しながら、神に対して盗みを働いているのである。

協 力

新しい伝道地に機関を設立する時、働きの詳細な部分についてよくわかっていない人々に責任を負わせなければならぬ事がよくあるが、こういう人たちは非常に不利な立場で働くのであるから、彼らと、その同労者たちとが、主の機関について、私心のない関心を持たないと、その繁栄を妨げるような事情が起こる。

多くの者は、彼らが携わっている部門の働きは、彼らにだけ属していて、だれも他の人は、それに関して何一つ提案をすべきでないと思っている。しかし正にこの人たちこそ、働きを経営する最上の方法について、無知であるかも知れないのである。しかも、だれかが、彼らに助言をしようとする、彼らは感情を害し、彼ら独自の判断に従おうと、いっそう固く決心する。また一方、働き人の中のある者たちは、彼らの同労者を助けたり、教えたりする事を喜ばない。経験の浅い他の人たちは、自分の無知が知られる事を望まない。彼らは、高慢で助言を求める

事ができないために、多くの時間と物質をむだにして間違いをするのである。

問題の原因を裁決する事は困難ではない。働き人たちは、自分たちが、模様を形成する助けとなるために、織り合わされなければならない糸として自分を見るべきであるのに、彼らは独立した別々の糸であつた。

これらの事は聖霊を悲しませる。神は、われわれが互いに知り合うように望んでおられる。清められていない独立心は、彼が、われわれと共に働いて下さる事ができない状態にわれわれをおくのであつて、サタンは、こういう事態を非常に喜ぶのである。

少数の者が持っている知識を、他の人々に取られる事を恐れて、秘密にしたり、心配をしたりしてはならない。そういう精神は、絶えず疑惑と束縛の原因となる。悪念や、さいぎ心にくけるようになり、兄弟愛は、心の中から死滅する。

神のみ働きのすべての部門が、他の各部門と関係を持っている。神が主宰しておられる機関においては、独占的な事は存在できない。なぜならば、彼が、すべての気転と創意の主だからである。彼は、すべての正しい方法の基礎であつて、それらについて知識を、お与えになるのは彼であるから、だれもこの知識を自分だけのものと考えてはならない。

各従業員は、すべての部門の働きに興味を持つべきであつて、もしも、神が、どの部門に対

してでも助けになるような先見の明を与え、能力や知識を授けられた時は、受けたものを伝達しなければならぬ。

機関に所属させる事ができる能力はすべて、機関を成功させるために、神の生きた働き手として、私心のない努力により、取り入れるべきである。才能と感化力を持った献身的な従業員こそ出版所が必要としている人々なのである。

従業員はすべて、主の機関の進展のために働いているか、あるいは自分自身の利益のために仕えているかを試される。回心した人々は、彼らが得た特典や知識を、自分の個人的な利益のために用いようとしていない事を、日々立証する。彼らは、神の摂理によって、これらの特典が与えられた事、そして、それは彼らが、主の器として、優秀な働きをする事により彼の御目的に役立つためである事を認識する。

だれも称賛を愛する気持や、最高の地位に対する野心から働くべきではない。真実な働き人は、そうする事によって神に栄光を帰する事ができるから自分の最善を尽くすのである。彼は、自分のすべての能力を上達させるために努力し、神に対して果たすように自分の義務を遂行する。彼の唯一の願いは、キリストが尊敬と完全な奉仕を、お受けになるという事である。

従業員は、彼らの全エネルギーを傾注して、主のみ働きの成功するために努力しなさい。そ

うする事によつて彼ら自身が力を得、有能さを獲得するのである。

自制と忠誠

われわれは、たやすく興奮し、神をはずかしめるような言葉を出すようになるほど、精神力でも体力でも過労させる権利はない。主は、われわれが常に冷静で忍耐強くある事を望まれる。他の人々が、どのような事をして、われわれはキリストを代表し、同様な事情にあって彼がなさるであろうと思う事をすべきである。

責任の地位にある者は、非常に重大な結果を左右する決定を毎日しなければならぬ。迅速に考えなければならぬ事がよくあるが、これは厳格な節制を実行する人たちにのみ、よくできる事なのである。精神は、身心の力を正しく取り扱う事によって強められる。負担が大き過ぎなければ、それは、極度の力を出させる度に新たな精力を獲得するのである。

心からのクリスチャンでなければ、だれも真の紳士ではあり得ない。

あらゆる点で、神の御要求に従う事を怠るならば、確実に失敗を招き、間違った事をしている者には損失となる。主の道に歩まない事によって、彼は、彼の造り主に当然ささげるべき奉仕を、彼から奪うのである。これは自分自身に反応し、神にすべてをお任せする者各自が受ける特権のある、恵みや能力や人格の力を得る事ができない。キリストから離れて生活する事により誘惑にさらされる。主のための働きにおいて彼は間違いをする。小さい事柄において原則に忠実でない彼は、大きい事柄において神のみおねを行う事に失敗する。彼は、自分が慣れている主義原則に従って行動する。

神は、自分自身を喜ばせ、第一にするために生活する人たちと関係を結ぶ事は、おできにならない。そうする人々は、終わりにには一番後になる。最も絶望に近く、直りがたい罪は、見解の誇りであり、自負心である。これは、すべての成長の妨げとなる。人間に品性の欠陥があつて、しかも、これを認識せず、あまりにも慢心していて自分の誤りを見る事ができなければ、どうして清められる事ができようか。「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である」

（マタイ九ノ一二）。自分のやりかたが完全だと思っている時に、どうして、その人が改善できようか。

神によって導かれ、教えられるはずの人が、自信の強いために道からはずれると、多くの人がその模範に従う。彼の誤った歩みが、無数の人々を迷わせる結果になるかも知れないのである。

いちじくの木のとえを、よく考えてごらんさい。「ある人が自分のぶどう園にいちじくの木を植えて置いたので、実を捜しにきたが見つからなかった。そこで園丁に言った、『わたしは三年間も実を求めて、このいちじくの木のところに来たのだが、いまだに見あたらぬ。その木を切り倒してしまえ。なんのために、土地をむだにふさがせて置くのか』。すると園丁は答えて言った、『ご主人様、ことしも、そのままにして置いてください。そのまわりを掘って肥料をやって見ますから。それで来年実がなりましたら結構です。もしそれでもだめでしたら、切り倒してください』」（ルカ一三ノ六―九）。

「それでもだめでしたら（そのあとで）。」これらの言葉の中には、神のみ事業に携わってい

る。すべての者のための教訓がある。実を結ばなかった木に、猶予期間が与えられたが、それと同じように、神は彼の民を長く忍耐される。しかし、大きな特権が与えられて来て、高貴で神聖な責任の地位に立ちながら、しかも実を結ばない者たちについては、「その木を切り倒してしまえ。なんのために、土地をむだにふさがせて置くのか」と彼は言われる。

主の特別な機関に属している人々は、彼が御自分のぶどう園から実を要求される事をおぼえなさい。与えられた祝福に相当して収益が要求されるのである。天使たちは、神の機関が設立されているすべての場所を訪れて奉仕をして来られた。これらの機関の中で不忠実さは、その他の場所におけるよりも大きな罪である。なぜならば、それは他の場所よりも大きな影響を及ぼすからである。不忠実さ、不正、不正直、悪事を黙認する事などは、神が彼の機関から輝き出るように計画しておられる光を妨げる。

社会は、あなたの言葉、あなたの行状、また、あなたの商売の取り引きを、鋭敏に、厳しく批判しようとして監視している。神のみ事業に関係して役割を果たす者はすべて監視され、洞察する人間のはかりで計られる。聖書の完教にとって有利であっても、不利であっても、あなたが関係するすべての人の精神に、印象は絶えず刻まれるのである。

社会は、クリスチャンと公言する人々が、どんな実を結んでいるかを見ようと監視している

が、彼らは、高度な真理を信じている人々に克己と自己犠牲を期待する権利があるのである。

われわれの働き人たちの中には、一歩一歩の歩みにイエスの必要を感じない人々があつたが、これからも常にあるであろう。彼らは、祈ったり、宗教的な集会に出席する時間がとれないと思う。彼らは、あまりにする事がたくさんあつて、自分の魂を神との愛の關係に保つための時間を見いだす事ができないのである。そうなるとサタンは、待ちかまえていて、つまらない事を想像させるのである。

勤勉でなく、忠実でない働き人たちは、計り知れない害を及ぼす。彼らは他の人々に手本を示すのである。どの機関にも、真心から喜んで奉仕している人たちがいるが、そのパン種が彼らに影響を及ぼさないものであろうか。機関に、クリスチャンの忠誠さを示す何人かの真実な模範となる人もいない状態にしてよいだろうか。キリストの代表であると主張している人々が、改心していない事を表わし、品性が粗野で、利己主義で、不純であるならば、み事業から離れさせるべきである。

働き人は、主が彼らを尊んで、お与えになった責任の神聖さを認識すべきである。衝動的な動機や、気まぐれな行動はやめなければならない。神聖なものと普通一般のものとの区別がつかない者は、高い責任を負うための安全な管理者ではない。彼らは誘惑されると信頼を裏切る。神のみ働きに携わる特権や機会の価値を認めない者は、敵が彼の見かけのよい誘惑を提供すると、これに耐える事をしない。利己的で野心的な計画によって、たやすく迷わされる。もし光が彼らに示された後にもなお、正しい事と誤った事との区別が彼らにつかなければ、彼らは早く、その機関から関係を断てば断つほど、み働きの質は、それだけ純粹になり、より向上する。

危機に当たって、主の機関が神聖である事を認識しない者は、どの主の機関にもとどめるべきではない。もし、働き人が真理に対する興味がなく、その機関に属する事が彼らを、より善良にせず、真理に対する愛を起こさせない場合は、十分に試みた後、み働きから彼らを離れさせなさい。それは彼らの無宗教や不信仰が他の人々を感化するからである。彼らを通して悪天使たちは、見習いとして入っている者たちを惑わすために働く。神を愛する前途有望な青年たちを見習い生として手に入れるべきである。しかし、彼らを、神に対する愛のない他の人々と

関係する所におくならば、不敬けんな感化を受ける危険にいつもさらされる。不熱心で世俗的な者、雑談にふける者、自分自身の欠陥は無視して他の人々の欠陥については、よくしゃべる人々は、み働きから離れさせるべきである。

不適當な読書から受ける危険

わたしは、不適當な読書によつて青年たちを脅かす危険を見る時、この大きな災いについて、わたしに与えられた警告を、更にもっと伝えずにはいられない。

好ましくない性質の印刷物を取り扱う事によつて従業員に及ぼされる害は、ほとんど認識されていない。彼らが扱っている論題の内容によつて、彼らの注意が引かれ、興味が喚起される。文章が記憶に刻まれ、思想が暗示される。ほとんど無意識のうちに、読者は著者の精神によつて感化され、思考や品性が悪への印象を受ける。信仰も自制力もあまりない人たちがあつたが、彼らにとつて、そういう読み物に暗示される思想を払いのける事は困難である。

ある人たちは、現代の真理を受け入れる前に、小説を読む習慣ができていて、教会につらなつた時、この習慣に勝利しようと努力をしたのである。この種の人々の前に、彼らが捨ててしまつてゐるものと類似した読み物を置く事は、大酒家にアルコール類を提供するようなものである。

いつも自分の前にある誘惑に負けて、彼らは間もなく、堅実な読み物に対する興味を失う。聖書研究には関心がなく、道徳的な力は弱くなり、罪は、だんだん、いやなものに見えなくなる。不忠実さが度を増し、人生の実際的な義務をきらう気持ちが強くなって行くのが明らかになる。精神が異常になると刺激的な性質の読み物なら何でも飛びつくようになる。このようにしてサタンが自分の支配下に完全に魂を連れて来るための道が開かれるのである。

それほど、はっきりと人を惑わしたり堕落させたりしない著書であっても、もし、それらが聖書研究をきらう気持ちを与えるならば、それもまた避けるべきである。聖書のみ言葉が真のマナなのである。精神のための食物でない読み物を欲する欲求は、皆抑制しなさい。精神が、この種の読み物で占められている間、あなたは、明せきな知覚をもって神のみ業をする事は、おそらくできないであろう。神の働きに携わっている者は娯楽的な軽い読み物のために時間も金銭も費やすべきではない。麦に比較して、もみごとに何の価値があるう。

くだらない娯楽に携わり、利己的な性質を満足させている時間はない。もう今は、まじめな事を考えて時間を費やさなければならぬ時である。しかも、世のあがない主の克己と自己犠牲の生涯を、よく考えながら、冗談を言ったり、ふざけたりする事を楽しみ、くだらない事に時間を浪費する事はできないのである。あなたは、クリスチャンの生涯における実際的な経験

が非常に必要である。あなたは、神のみ業のために精神を教育しなければならない。宗教の体験は、余暇に、あなたが読む書物の性質によって大いに決定されるのである。

もし、あなたが聖書を愛し、その豊かな宝を得るために、機会あるごとに、それを探索するならば、イエスが御自身のほうに、あなたを引き寄せておられる事は確かである。

「あなたがたは、おなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストにあつて、それに満たされているのである」(コロサイ二ノ八一〇)。

われわれは、キリストにあつて満たされていながら、しかも、この世のいわゆるすぐれた人の書いたものにすぐ飛びつこうとし、世界最大の教師の知恵よりも彼らの知恵を重んじるという事はない。そういう出所から知識を求める事を、み言葉の中には、水を入れておくことのできない、こわれた水ためから、水を飲もうとするようなものであると言っている。

神の真理を沈黙考の主題にしなさい。聖書を読んで、それを、あなたに直接語っておられる神のみ声と考えなさい。そうする時に、あなたは靈感と天来の知恵を発見するのである。

多くの書籍を研究のために集める事は、あまりにもしばしば、神と人間との間に、思考力を弱め、既に得たものを吸収できないようにする大量の知識を、さしはさむ。頭脳が消化不良を起こすのである。人間は、これらの多くの著書と、いのちのみ言葉との間を正しく選択し得るように知恵が必要であるが、それは、神のみ子の肉を食し、血を飲むためである。

兄弟たちよ、低地の流れは捨てて、レバノンの清水に來なさい。消化できない大量のものを、あたまに詰め込んでいる間、あなたは決して神の光のうちを歩む事はできない。もう今は、天の助けをいただき、精神にみ言葉の感銘を受けさせる決心をすべき時である。あまり読書にふける事はやめよう。もっと祈り、いのちのみ言葉を食べよう。あたまと心に、より深い恵みの働きがなされなければ、われわれは決して神のみ顔を仰ぐ事はできない。

負債を避けなさい

神は、み事業が負債でいつも困難に陥っている事を望まれない。機関の建築物や設備を増す事が望ましいと考えられる場合、手持ちの資金を越えないように注意しなさい。大きな負債を負って利子を払うという事にならないで、み摂理によつて、それらが建つための道が開かれるまで、改善する事を延期したほうがよいのである。

出版所は、われわれの信徒たちによつて預金の場所とされ、それによつて、いろいろな伝道地の働きの各部門を支える費用を供給する事ができ、また、他の事業の運営を助けたのであった。これは結構な事であつて、決して、これらの方面でやり過ぎてはいなかった。主は、すべてを取り計らわれる。しかし、わたしが彼から与えられた光によると、負債を負わないために、あらゆる努力をしなければならぬのである。

出版事業は、犠牲によつて創立されたのであつて、厳密な節約の主義原則に従つて運営され

なければならぬ。金銭の必要に迫られる場合、もし従業員が給料の削減に同意すれば、経済問題は処理できる。これが、われわれの機関に取り入れるよう、わたしに主が示された原則であった。金銭が欠乏している場合、われわれは、快く自分たちの欲望を制限すべきである。

出版の正しい見積もりを立てなさい、そして、相当の不便さを生じて、われわれの出版所に働く者は皆できる限りあらゆる面で節約するよう研究しなさい。わずかな出費に注意し、すべての浪費を抑えなさい。少しずつの損失が、最後には重くこたえるのである。少しでもむだにならないように、パンくずを集めなさい。おしゃべりに寸時も浪費してはならない。むだに過ぎた数分が多く時間をそこなのである。忍耐強く勤勉に、信仰をもって働くならば、必ず成功をもって報いられる。

ある人々は、小さな事に気を配る事は彼らの威厳にかかわると考え、狭い見や、けちな精神の証拠であると思う。しかし、小さな水漏れが多く船を沈没させている。何かの役に立つと思われるものは、どんなものでもむだに失わせてはならない。節約心の欠乏は必ず、われわれの機関に負債をもたらす。多額の収入があっても、それは事業のすべての部門のわずかの浪費によって失われてしまう。節約は、もの惜しみではない。

出版所に雇われている男女はすべて、忠実な番人となって、何一つむだにならないよう見守つ

ていなければならない。必要だと想像される物で金銭を支出しなければならないものに対しては、皆警戒しなさい。ある人たちは、年収四〇〇ドルで、他の人々が八〇〇ドルで生活するよりも、よく生活できる。われわれの機関についても、その通りであって、ある人々は、他の者よりも、ずっと少ない資金で、それらを管理する事ができるのである。神は、すべての働き人が節約を実行し、特に忠実な会計係であるように望まれる。

われわれの機関で働くすべての従業員は、正当な報酬を受けるべきである。適当な給料を支払われるならば、み事業に寄付をする喜びを体験するのである。ある人々が多額の報酬を受け、重要な働きを忠実にしている他の人たちが、非常に少ない給料を受ける事は正しくない。

しかし、差をつけなければならない場合がある。出版所に属して、重い責任を負い、その仕事が発関にとって非常に価値のある人々がいる。彼らは、他の多くの地位に立っていたならば、ずっと苦労も少なく、経済的には、はるかに多くの収入を得ていたはずである。そういう人たちに、単なる機械的な仕事をする働き人と変わらない給料を支払う事の不正当さは、だれでも理解する事ができる。

婦人が特定の働きをするように主によって指名されたならば、彼女の働きは、その価値によって評価されるべきである。み事業のために、人々の時間と労力を無報酬でささげさせる事が、

よい政策であると、ある人たちは考えるかも知れない。しかし、神は、そのような取りきめを承認なさらない。資力の不足によって自己犠牲が要求される時には、重荷を全部少数の人に負わせてはならない。全員が一致協力して犠牲を払いなさい。

主は、彼の財産を委託された者たちが、物惜しみするのではなく、親切さと寛大さを示すように望まれる。彼らを取り引きをする時、少しでも多く搾取しようとしてはならない。神は、そのような手段を軽べつして、ご覧になるのである。

従業員は、正直に働いた時間に応じて報酬を受けるべきである。全時間働いた者は、その間に従って受けなければならない。だれでも、頭脳と心と体力をそそいで重荷を負うならば、それに相当して支払われるべきである。

たとえば、特別な能力や資格があつたにしても、だれ一人、法外な給料を与えられてはならない。神と彼のみ事業のためになされた働きは、報酬目あての基準で取り扱ってはならないので

ある。出版所の従業員は、他の方面の働き人に比較して、労力が過重であつたり、費用がかつたり、もっと責任が重かつたりする事はない。彼らの働きは、忠実な牧師の働きよりも、決して、もっと疲労させるものではないのである。それどころか、牧師は、通常、われわれの機関の働き人たちによって払われる以上に大きい犠牲を払っている。牧師たちは、つかわされる所へ行く。彼らは、いつ何ときでも行動し、どんな非常事態にも対応する用意のあるミニット・メン（米国独立戦争の時に即座に召集に応じる準備をしていた民兵）である。彼らは、必然的に、家族と分かれていなければならぬ事が非常に多い。出版所の働き人たちは、通常、変わらない家があつて、家族と一緒に生活できる。これは非常に費用の節約になるのであるから、牧会の働き人と出版所の働き人との報酬を比較する場合に、これが及ぼす意味を考慮すべきである。

主のぶどう園で、心をこめて働き、自分の能力を最大に發揮して努力している人たちは、自分自身の勤めを最高に評価する人々ではない。高慢心や自負心で得意になり、毎時間の働きを正確に計算するような事はしないで、彼らは、自分の努力を救い主のみ働きと比較して、自身を、ふつつかな僕と考える。

兄弟たちよ、最低の標準に到達するために、どれだけ手を抜く事ができるかを考えないで、

キリストのために多くの事ができるよう、目をさまして彼の満ち満ちた徳を把握しなさい。

主は、み事業の偉大さを悟り、その開始された時から、これに織り込まれて来た主義原則を理解する人々を求めておられる。彼は、世間的な事の考えかたが、はいつて来て、彼が、その民のために明示されたものから全然違った形に、み働きを形成する事は、おゆるしにならない。み働きは、その創設者の性格を持っていなければならないのである。

墮落した人類のために払われたキリストの犠牲によって、いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互いに口づけしたのである。非常にすばらしく、成功しているように見える働きから、これらの特質を除いたら、それには何の価値もない。

神は、少数の人々を、えこひいきして選抜し、他の者たちは、顧みられないままに放っておくような事はされなかった。彼は、一人を引き上げて、他を投げ倒し、しいたげる事はされない。真に改心した者は皆、同じ精神を表わす。彼らは、キリストを取り扱うであろうと思うように彼ら人間同士を取り扱う。だれも他の人の権利を無視しない。

神の僕たちは、彼らが取り扱っている神聖な働きに、
こん跡ほどの利己心も持ち込まないほ
ど、それに対して大きな尊敬の念を持つべきである。

信仰と勇氣

主は、イスラエルの民をエジプトから救出し、荒野で驚くべき方法をもって守られた、彼らに対する御取り扱いにつき、彼らに詳しく語るよう、モーセにお命じになった。それは試練に会った時の彼らの不信仰と、つぶやき、そして、彼らを決して見放さなかった主の大きな、あわれみといつくしみを思い起こさせる事が目的であつた。これが彼らの信仰を刺激し、勇氣を増させるのであつて、彼らは自分自身の罪と弱さを認識させられると同時に、また、神が彼らの義と力である事を認めるのであつた。

今日、神の民が、彼らが、いつどのようになされたか、どういつ点で彼らの信仰がなくなつたか、どの点で彼らの不信仰や自信が、み働きを危険に陥れたかをおぼえている事は、同様に重要である。神のあわれみ、ささえる彼のみ摂理、決して忘れてはならない救いを、少しずつ詳しく説明すべきである。このようにして神の民が過去を思いかえす時、主は、常に彼らに対

する取り扱いを、くり返しておられる事を悟るべきである。彼らは、与えられた警告を理解し、彼らの間違いをくりかえさないように注意しなければならない。自己信頼の念を全く捨てて、彼のみ名を再びはずかしめる事から救って下さるよう、彼に信頼すべきである。サタンが勝利するたびに魂は危険に陥るのである。ある人々は、彼の誘惑の材料になり、決して立ち直る事ができない。であるから、間違いをした人たちは「わたしの歩みはあなたの道に堅く立ち、わたしの足はすべることがない（いようにしてください）」（詩篇一七ノ五）と、一歩みごとに祈りながら注意深く歩きなさい。

誘惑に会って、だれが忠誠を保つかを証明するために、神は試みをおくられる。彼は、すべての者を、つらい立場に導いて、彼らが、自分以外の、そして自分以上の力に頼るかどうかが、ごらんになるのである。だれにでも、試練によって露顕されなければならない未知の性格的な特徴がある。彼らが自分の無力さを理解するために、神は、自負心の強い者たちが、ひどく試みられる事を、お許しになる。

試練がわれわれに臨み、自分たちの前に繁栄の増進ではなく、全員の犠牲を必要とする不況が見られる時、われわれは非常なつらい目に会わなければならないというサタンの暗示を、どのように受けるべきだろうか。彼の提案に耳を貸すと神に対する不信が生じる。そういう場合、

われわれは、神がいつも彼の機関を守って来られた事をおぼえるべきである。われわれは、彼が行われたみ働きや彼が果たされた改革をながめるべきである。われわれは、よい事のしるしとして、天の祝福の証拠を集め「主よ、われわれは、あなたと、あなたのしもべたち、そしてあなたのみ事業を信じます。われわれは、あなたに信頼します。出版所は、あなた御自身の機関ですから、われわれは、失敗も失望もしません。あなたは、あなたの中心施設にたらならせる事によって、われわれを尊んでくださいました。われわれは、主の道を守り、正義と公道とを行います。われわれは、神のみ事業に忠実である事によって、われわれの分を果たします」と言うべきである。

もしわれわれが困難に出会った時、その場所で、われわれに信仰がなければ、どこへ行っても信仰は起こらない。

われわれの最大の必要は、神に対する信仰である。暗い面を眺める時、われわれはイスラエ

ルの神、エホバにつかまっている自分の手を放す。心を恐怖と憶測に対して開くと、不信仰によつて進歩の道が妨げられる。神が彼のみ働きを見捨てられたなどと絶対に思わないようにしよう。

不信仰を言葉に出す事は、もっと少なくし、この事、またあの事が道をふさいでいると想像する事を、あまりしてはならない。信仰によつて前進し、主が、そのみ業のために道を備えて下さる事に信頼しなさい。そうする時に、あなたはキリストにある安息を見いだすのである。信仰を養い、自分自身を神との正しい関係に置き、自分の義務を果たすために熱心に祈って元氣を出すならば、聖霊は、あなたのうちに働かれる。現在、不可解な多くの問題も、神に信頼しつづける事によつて、自分自身で解決する事ができる。あなたは、聖霊の導きのもとに生活しているのであるから、それがいつまで続くかわからないと、つらく感じる必要はない。あなたは自信をもつて歩み、働く事ができる。

われわれが清い手と、いさぎよい心を持つためには、自分にできる事について自信を少なくし、主が、われわれのためになし得る事について、もっと信仰を持たなければならない。あなたは、あなた自身の仕事に携わっているのではなく、神のみ業をしているのである。

もっと愛が必要であり、もっと率直でなければならぬ。疑惑や悪い考えは、少なくならな

ければならない。すぐ人を非難し、過ちを責めようとする態度は無くなつて行かなければならない。神にとって、ほんとうに、いやに思われる事は、この事である。心は、愛によって、やさしくなり、和らげられなければならない。われわれの信徒たちの無力な状態は、彼らの心が神と正しい関係にないために生じるのであって、神からの疎遠が、われわれの機関に苦しい状態を来たす原因である。

心配はしないようになさい。外觀を眺め、困難や不況が訪れる時に、つぶやく事によって、病的な弱い信仰を表わすのである。あなたの言葉と行いによって、あなたの信仰は、打ち倒しがたいものである事を示しなさい。主は資源に豊かなかたであつて、世界を所有しておられる。光と権力と能力を持っておられる彼に頼りなさい。彼は、光と愛を他に与えようと努力しているすべての者を祝福してください。

主は、彼らの繁栄が、彼と共にキリストのうちにかくされている事、それが彼らのけんそんと柔和、またまごころからの服従と献身に依るものである事を、みんなが理解するように望んでおられる。彼らが、偉大な教師の教えを学び、自己に死に、人に頼らず、内なる者を自分の

腕としないならば、彼を呼び求める時、主は、彼らにとって、そのたびに時機を得た、いと近き助けとなってくださる。判断を下す時には導き、彼らの右に立って助言を与え、「これは道だ、これに歩め」と彼らに言われる。

責任の地位にある兄弟たちは、働き人たちに信仰と勇気の言葉を語りなさい。あなたの網を、信仰の側である船の右側に投げなさい。恵みの期間が続く限り、献身した、生きた教会に何ができるかを示しなさい。

われわれは、目に見えない力の間で行われている大争闘、すなわち、忠義な天使たちと不忠実な天使たちとの間の争いを、理解すべきほどに理解していない。あらゆる人間について、善と悪との天使たちが戦うのである。これは、作りごとの戦いではない。われわれが従事しているのは、まねごとの戦争ではない。われわれは、最も有力な敵と交戦しなければならないのである。あつて、しかも、どちらが勝つかを決定するのは、われわれによるのである。われわれは、初代の弟子たちが彼らの力を見いだした所に、自分たちの力を見いださなければならない。「彼らはみな、……心を合わせて、ひたすら祈をしていた。」「突然、激しい風が吹いてきたような

音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。」「すると、一同は聖霊に満たされ……た。」（使徒行伝一ノ一四、二ノ二、四）。

すべて、天来の恵みの約束は、義に飢え渴いている人たちのためであるから、欠陥があつたり、失望している理由は成り立たない。飢え渴くという言葉で表現されている強い欲求は、切望しているものが与えられるという保証である。

われわれが、神のみ働きをするための自分の無能力さを認識し、彼の知恵によって導かれるように、身を任せるや否や、主は、われわれと共に働く事がおできになるのである。われわれが、心の中から自我を捨てるなら、彼は、われわれに必要なすべてのものを供給して下さる。

聖霊の届く事のできる所に、あなたの考えや意志を置きなさい。なぜならば、それらに届くために、他の人間の考えや良心を通して彼は働かれないからである。知恵を求めて熱心に祈り、神のみ言葉を学びなさい。神に全的に服従した、清められた理性の勧告を聞きなさい。

単純さと信仰をもって、イエスを見上げなさい。あまりの輝きに、気を失うようになるまでイエスを凝視しなさい。われわれは、半分も祈っていないし、半分も信じていない。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」（ルカ一一ノ九）。祈り、信じ、互いに力づけ合いなさい。主があなたの上に、み手を置き、あなたが、その長さ、広さ、深さ、高さを理解することがで

き、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、今まであなたが祈った事がないほど祈りなさい。

われわれが試練に耐えるように求められるという事は、主イエスが、われわれの中に、発育させたいと望まれる何か非常に尊いものを認めておられる事を証明する。もし、彼のみ名の栄光になるものを何一つ、われわれの中に、御覧にならなければ、われわれを精練するために時間を費やされる事はないのである。われわれは、いばらを剪定するために特別な骨折りはしない。キリストは、無価値な鉱石を彼の炉に投げ入れる事はなさない。彼が試めされるのは価値のある鉱石である。

かじ屋は、それらがどんな金属かを知るために鉄やはがねを火の中に入れる。主も彼の選ばれた者たちが悩みの炉に入れられる事をお許しになるが、それは、彼らがどんな性質のものかを見、また、彼らをみ業のために形作る事ができるかどうかを、御覧になるためである。

自己犠牲

キリストの王国の律法は、非常に単純で、しかも非常に完全であつて、人間の造った付則は混乱を来たす。また、神のみ事業の中で行われる働きの計画も、単純であればあるほど、われわれは多くの事を成就する。神のみ働きに世俗の政策を取り入れる事は、災害と敗北を招く事である。単純さと、けんそんが、彼の王国の進展のためになされる効果的なすべての努力の特色でなければならぬ。

福音が、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えられるために、自己犠牲は続けられなければならない。責任の地位にある者は、すべての事で、忠実な管理者として行動し、人々の造った資金を良心的に守らなければならない。すべての不必要な支出は避けるために注意が払われなければならない。み働きのために建物を建設し、設備をととのえる時、不必要に金銭を消費するほど、過剰な計画はしないように注意すべきである。なぜならば、そうするといつも、

他の伝道地、特に外国におけるみ働きを拡張させる資金を供給する事ができなくなるからである。遠い地方に真理が進展する事を弱める危険を冒して、国内の伝道地に機関を設立するための費用を、会計から引き出してはならない。

神の金銭は、すぐ近所の地区だけでなく、遠くの国々、海の島々で用いられなければならない。もし、彼の民が、この働きに従事しなければ、神は必ず、正しく用いられなかった力を取り去られる。

信徒の中の多くの者が、ほとんど、十分な食物もないのに、そのひどい貧困の中から、彼らの十分の一献金や諸献金を主の会計に納めている。困難な苦しい状況の中で神のみ事業を支える事が何であるかを知っている多くの者は、出版所に資金を投資したのである。彼らは、喜んで困難や貧困に耐え、み働きの成功を見守り、祈って来た。彼らの供え物や犠牲は、彼らを暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたに対する彼らの心の熱い感謝を表現している。彼らの祈りや施しは神のみ前にとどいて、おぼえられている。天に昇る香の煙の中で、これ以上、かおりの良いものはないのである。

しかし、広い区域にわたる神の働きは一つであって同じ原則が、そのすべての部分を支配すべきである。それは伝道の働きの証印が押されていない。み事業のすべての部門

が、福音伝道地の各部門に関係していて、一部門を支配する精神は、伝道地全体を通じて感じられるようになる。もし、一部の働き人が多額の給料を受け取ると、働きの中の各種の部門で、また、高い給料を要求する他の人たちがあつて、自己犠牲の精神は乏しくなる。他の機関も同じ精神がうつり主の恩恵は彼らから取り去られる。それは、彼が利己主義な事を決してお認めになる事ができないからである。こうして、われわれの進取的な働きは止まってしまうに相違ない。それは、継続的な犠牲によらなければ前進させて行く事が不可能なのである。世界各地から、働きを前進させるために人々と資金の要請が来ている。「あなたがたは待たなければならぬ、会計にお金がないから」と言わざるを得ないのだろうか。

この働きを先に立って始め、克己し、その成功のためには犠牲を払う事にちゅうちよしなかった、経験と信仰に富んだ何人かの人たちは、今日、墓の中で眠っている。彼らは、神が指定された通路であり、彼の代表者たちであつて、彼らを通して霊的生命の原理が教会に伝えられたのである。彼らは最高に価値のある経験をしている。彼らは売買されない人たちであつた。彼らの純潔さと信仰、自己犠牲、神との生きたつながりが、祝福されて、み事業は設立されたのであつた。われわれの機関は、自己犠牲の精神によつて特徴づけられていたのである。われわれが貧困と戦っていたころ、み事業のために、どんなにおどろくべき働きを、神がな

さったかを見た人たちは、彼らを神とつないでいる神聖なきずなによって、彼らが、み働きの利害と一つに結ばれている事を、彼らに授けられ得る最大の名誉と感じた。彼らは、重荷をおろして、金銭的な考えによって主と交渉して話をつけるだろうか。いいえ、決して。たとえば、御都合主義者が皆、その持ち場を放棄しても、彼らは、決して、み働きを捨てる事はしない。

この事業の初期において、働きを築き上げるために犠牲を払った信徒たちは、同様の精神で心が染まっていた。彼らは、み業を成功させるため、神が、彼の働きに関係しているすべての者に、肉体と心と霊と、彼らのエネルギーと才能のすべてを、あます所なくささげるように要求しておられると感じた。

しかし、ある点で、働きは低下した。その範囲や設備においては成長したが、敬虔の点で衰微したのである。

ソロモンの歴史の中に、われわれのための教訓がある。このイスラエルの王の初期の生涯は、有望さで輝いていた。彼は、神の知恵を選び、彼の治世の栄光は世界の驚異となった。彼は、ますます勢力を増大し、りっぱな人物に成長し、神の御品性に似たすがたに、絶えず近づいて行く事もできたのに、彼の歴史は何と悲しい事であろう。彼は、最も神聖な責任の地位に上げられたが、不忠実である事を立証したのである。彼は、自負心を抱き高慢になり、自己称揚の

態度に成長して行つた。政治的な権力と自己増大への欲望は、彼に異教の国々と同盟を結ばせた。タルシシの銀とオフルの金を、おそるべき費用、すなわち高潔さを犠牲にし、聖なる信頼を裏切つて彼は手に入れたのであつた。偶像礼拝者たちとの交際は、彼の信仰を墮落させた。間違つた一步は次へ導き、神が彼の民の安全のために立てておかれた障壁は破壊された。彼の生活は一夫多妻で汚れ、遂に彼は偽りの神々の礼拝に身をささげるに至つたのである。堅実で、純潔で、崇高であつた品性は弱くなり、道徳的な無力さが目立つた。

彼は、神を自分の指導者、助言者としなかつたので、かつては、りっぱな自主的であつた精神を、好きなように左右する悪い助言者に不足しなかつた。彼の鋭敏な感覚は鈍り、彼の統治の初期に示した良心的な、思いやりのある精神は変わった。放縦が彼の神であつて、その結果、厳しい裁判と残酷な圧制が彼の行動の特色となつた。利己的な放縦によつて行われた浪費は、貧民を苦しめる課税を必要とした。国家を統治した王たちの中で最も知恵のあつた王から暴君に、ソロモンはなつてしまつたのである。王として彼は、国民の偶像であつて、彼の言つた事やした事は模倣された。彼の模範は影響を及ぼしたが、その結果は、すべての人の行いが神の前で再吟味されて、皆、自分の行つたことに応じて、それぞれ裁かれる時に、初めて完全にわかるのである。

大きな光と特権が与えられていながら、自分自身の道を歩み、永遠の危害を招く人々の悪い行いに、神はどうして忍耐なさる事ができるだろうか。宮の献堂式において人々に「われわれの神、主に対して、心は全く真実であり（なさい）」（列王紀上八ノ六一）と、厳粛に命じたソロモンが、自分勝手な道を選んで、心は神から離れたのである。かつては神にささげられた頭脳、神の感動を受けて、最も貴い知恵の言葉（箴言の書）―不滅のものとされた真理―を書いた、あのりっぱな頭脳が、悪い人々との交わりと、誘惑に負ける事によって、能力を失い、道徳的にも弱くなって、ソロモンは自分自身をはずかしめ、イスラエルをはずかしめ、神をはずかしめた。

このすがたをながめて、われわれは、人間が神から離れる危険を冒す時、どうなるかという事を悟る。間違った一步は、次の一步を踏む道を作り、一歩みごとに、たやすく進むようになる。こうして人々は、キリストでない他の指導者に従って行くのである。

われわれの機関で働いている者は皆、試みられる。もし、彼らがキリストを彼らの模範とするならば、彼は、知恵も知識も悟りも、お与えになる。彼らは恵みのうちに成長し、キリスト

のような適性を増し、品性はキリストの姿に似て形成される。もし、彼らが主の道に従って行かないならば、他の霊が思考や判断を支配し、彼らは、主を除外して計画を立て、彼ら自身の道を選んで、彼らが占めていた職場を捨てる。光は、彼らに与えられていたのであるから、もし、彼らがそれから離れるなら、だれも彼らにとどまるよう、わいろを贈って誘うような事をしてはならない。これは妨げとなり、わなとなる。震われないものが残るために、震われ得るすべてのものが震われる時が来ている。すべてのケースが神のみ前で調査されつつあり、彼は宮と、その中の礼拝者たちを計っておられるのである。

教会へのあかし

(出版事業の部)

1975年5月21日 発行

著 者	エレン・G・ホワイ
発 行 者	広 田 実
印刷・製本	福 音 社

241 横浜市旭区上川井町1966

発 行 所 福 音 社

電話 (045) 954-1414 (代)

PRINTED IN JAPAN